

# 学術活動業績

## 2014年学術活動業績

## I 他誌掲載論文

## 脳卒中維持期連携パスの取り組みについて

鶴岡市立荘内病院

神経内科 丸谷 宏

脳神経外科 佐藤 篤、佐藤和彦

山形県対脳卒中治療研究会会誌32 : 4-8, 2014

医心伝心-心の医療で診立てを伝える 寸劇で緩和ケアを紹介～愉快な一座があなたのお近くに出張します～

緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川

鶴岡市立荘内病院 外科 鈴木 聰

敬天愛人 2014年10月号 荘内日報社

## Does a regional comprehensive palliative care program improve pain in outpatient cancer patients?

Tatsuya Morita, Kazuki Sato,

Mitsunori Miyashita, Akemi Yamagishi,

Yoshiyuki Kizawa, Yasuo Shima,

Hiroya Kinoshita, Satoshi Suzuki,

Yutaka Shirahige, Takuhiro Yamaguchi,

Kenji Eguchi

Support Care Cancer 22:2445-2455, 2014

## 橈骨遠位端骨折に合併した手根管症候群の検討

鶴岡市立荘内病院

整形外科 後藤真一、河内俊太郎

日本手外科学会雑誌 30 (1) :1-4, 2014

## 大腿骨頸部骨折に対する骨接合術後的小範囲型 avascular necrosis (AVN) のMRIによる予後予測

鶴岡市立荘内病院

整形外科 穂苅 翔、浦川貴明、後藤真一、

日向野行正、河内俊太郎、藤川隆太、

勝見亮太、山岸哲郎

東北整形災害外科学会雑誌 57 (1) :11-14, 2014

## 非定型大腿骨骨折と大腿骨弯曲の関連

鶴岡市立荘内病院

整形外科 鈴木一瑛、後藤真一、日向野行正、

河内俊太郎、浦川貴朗、望月友晴、

藤川隆太、村岡 治、渋谷洋平

東北整形災害外科学会雑誌 57 (1) :50-53, 2014

鶴岡市における三歳児健康診査から一過去の5年間(1991～1995年度)と最近の5年間(2007～2011年度)との比較を含め一

第六報：極端に落ち着かず、注意集中ができない児の割合とその背景

鶴岡市立荘内病院

小児科 新井 啓、堀口 祥、久保暢大、

佐藤聖子、佐藤紘一、庄司圭介、

齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

鶴岡市健康福祉部健康課

山形県医師会会報 749 (1月号) : 17-25, 2014

鶴岡市における三歳児健康診査から一過去の5年間(1991～1995年度)と最近の5年間(2007～2011年度)との比較を含め一

第七報：精神運動発達の遅れの背景

鶴岡市立荘内病院

小児科 齋藤なか、堀口 祥、久保暢大、

新井 啓、佐藤聖子、佐藤紘一、

庄司圭介、吉田 宏、伊藤末志

鶴岡市健康福祉部健康課

山形県医師会会報 750 (2月号) : 14-23, 2014

鶴岡市における三歳児健康診査から一過去の5年間(1991～1995年度)と最近の5年間(2007～2011年度)との比較を含め一

第八報：指しゃぶりの背景と不正咬合

鶴岡市立荘内病院

小児科 堀口 祥、久保暢大、新井 啓、

佐藤聖子、佐藤紘一、庄司圭介、

齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

鶴岡市健康福祉部健康課

山形県医師会会報 751 (3月号) : 17-23, 2014

鶴岡市における三歳児健康診査から一過去の5年間(1991~1995年度)と最近の5年間(2007~2011年度)との比較を含め一

#### 第九報：指しやぶりの背景と不正咬合

鶴岡市立荘内病院

小児科 佐藤聖子、堀口 祥、久保暢大、

新井 啓、佐藤紘一、庄司圭介、

齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

鶴岡市健康福祉部健康課

山形県医師会会報 752 (4月号) : 17-23, 2014

#### 山形県小児肥満対策の具体的な運用について

山形県小児保健会

山形大学医学部 小児科学教室 沼倉周彦

早坂 清

鶴岡市立荘内病院 小児科 伊藤末志

日本海総合病院 小児科 木村敏之

勝島小児科医院 勝島由利子

山形県医師会会報 752 (4月号) : 17-23, 2014

Molecular epidemiology of enterovirus 71 strains isolated from children in Yamagata, Japan, between 1990 and 2013

Department of Microbiology, Yamagata Prefectural Institute of Public Health

Katsumi Mizuta, Yoko Aoki,

Yohei Matoba, Kazue Yahagi,

Yamanobe Pediatric Clinic Tsutomu Itagaki

Katsushima Pediatric Clinic

Fumio Katsushima, Yuriko Katsusima

Department of Pediatrics, Shonai Hospital

Sueshi Ito,

Department of Infectious Diseases, Yamagata

University Faculty of Medicine

Seiji Hongo, Yoko Matsuzaki

Journal of Medical Microbiology 63:1356-1362, 2014

#### 自然毒：クラゲ～カギノテクラゲ刺傷を中心に～

鶴岡市立荘内病院 小児科 伊藤末志

日本臨床（別冊）新領域別症候群シリーズ（30）

神経症候群（第2版）: 708-711, 2014

後腹膜腫瘍としてみつかったALK陽性未分化大細胞型リンパ腫

鶴岡市立荘内病院

病理科 鈴木俊市、近藤敏仁、加藤哲子、

内ヶ崎新也

日本臨床細胞学会誌 53(3): 218-223, 2014

当院における急性心筋梗塞患者への心臓リハビリテーションプログラムの紹介

鶴岡市立荘内病院

リハビリテーションセンター 濑尾 章央

山形県理学療法学11:45-48, 2014

どこみる？どうみる？フットケア誌上検討会：どこをみますか？何がわかりますか？どうケアしますか？

鶴岡市立荘内病院 看護部 百瀬 幸

糖尿病ケア11(5):424-428, 2014

No.98 シュポシュポ肩甲児；その案いただき！糖尿病患者さん指導用アイデアグッズ

鶴岡市立荘内病院 看護部 宅井さやか

糖尿病ケア11(7):612-613, 2014

## II 学会発表

### 〔神経内科〕

#### 脳卒中維持期連携パスの取り組みについて

鶴岡市立莊内病院

神経内科 丸谷 宏

脳神経外科 佐藤 篤、佐藤和彦

第32回山形県対脳卒中治療研究会

(2014年5月31日) 山形市

#### 疾病管理を目指した脳卒中地域連携パスデータ解析

鶴岡市立莊内病院

神経内科 丸谷 宏

脳神経外科 佐藤和彦

リハビリテーション科 渡部美穂

第15回日本クリニカルパス学会学術集会

(2014年11月14日) あらわ市

### 〔外 科〕

#### がん緩和ケア OPTIM プロジェクトが地域にもたらしたもの

鶴岡市立莊内病院 外科 鈴木 聰

第4回新庄最上臨床緩和ケア研修会

(2014年4月25日) 新庄市

#### 在宅における緩和ケアグループ討論

鶴岡市立莊内病院 外科 鈴木 聰

平成26年度第3回山形県緩和ケア研修会

(2014年7月20-21日) 新庄市

#### 腹腔鏡補助下に切除した下行結腸脂肪腫の1例

鶴岡市立莊内病院

外科 坂本 薫、二瓶幸栄、島田哲也、

橋本喜文、城之前翼、阿部尚弘、

鈴木 聰

小児外科 大滝雅博

第18回山形内視鏡外科研究会

(2014年8月23日) 山形市

#### 肋間軟部組織への転移をきたした小腸癌の稀な1例

鶴岡市立莊内病院

外科 橋本喜文、鈴木 聰、二瓶幸栄、

大滝雅博、坂本 薫、島田哲也、

阿部尚弘、城之前翼、須藤大輔、

三科 武

第168回東北外科集談会 (2014年9月13日) 秋田市

#### がん緩和戦略研究 OPTIM 介入による地域診療所の変化

鶴岡市立莊内病院

外科 鈴木 聰、三科 武

内科 和泉典子

鶴岡地区医師会 会長 三原一郎

第24回山形県緩和医療研究会

(2014年9月27日) 山形市

#### ヌック水瘤に合併した外性子宮内膜症の1例

鶴岡市立莊内病院

外科 西見由梨花、二瓶幸栄、城之前翼、

阿部尚弘、坂本 薫、鈴木 聰、

三科 武

小児外科 大滝雅博

第76回日本臨床外科学会 (2014年11月21日) 郡山市

#### 放射線治療後に心膜炎を発症した食道がんの2例

鶴岡市立莊内病院

外科 阿部尚弘、鈴木 聰、二瓶幸栄、

坂本 薫、島田哲也、橋本喜文、

城之前翼、三科 武

小児外科 大滝雅博

第76回日本臨床外科学会 (2014年11月21日) 郡山市

#### 胃内分泌細胞癌の1例

鶴岡市立莊内病院

外科 松延武彦、坂本 薫、阿部尚弘、

城之前翼、橋本喜文、八木亮磨、  
二瓶幸栄、鈴木 聰

小児外科 大滝雅博

第33回庄内医師集談会 (2014年11月30日) 酒田市

**扁平上皮がんと併存した食道胃接合部に発生した  
神経内分泌細胞癌の1例**

鶴岡市立莊内病院

外 科 橋本喜文、鈴木 聰、二瓶幸栄、  
八木亮磨、阿部尚弘、城之前翼、  
松延武彦、三科 武

小児外科 大滝雅博

第278回新潟外科集談会 (2014年12月 6日) 新潟市

**[小児外科]**

**交通事故による脾損傷を契機に診断された先天性  
胆道拡張症の1例**

鶴岡市立莊内病院

外 科 升井大介、阿部尚弘、二瓶幸栄、  
鈴木 聰、三科 武

小児外科 大滝雅博

第51回日本小児外科学会総会

(2014年 5月 8－10日) 大阪市

**胎生期の腸回転異常により先天性十二指腸閉鎖症  
を発症したと考えられる一例**

鶴岡市立莊内病院

外 科 阿部尚弘、升井大介、二瓶光栄、  
鈴木 聰、三科 武

小児外科 大滝雅博

第51回 日本小児外科学会総会

(2014年 5月 8－10日) 大阪市

**小児巨大腹壁瘢痕ヘルニアに対する Components  
Separation 法**

鶴岡市立莊内病院

外 科 阿部尚弘、城之前翼、二瓶幸栄、  
鈴木 聰、三科 武

小児外科 大滝雅博

第34回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会

(2014年10月30－31日) 淡路市

**小児の乳腺膿瘍に対する排膿散及湯の使用経験例**

鶴岡市立莊内病院

外 科 城之前翼、阿部尚弘、二瓶幸栄、  
鈴木 聰、三科 武

小児外科 大滝雅博

第19回日本小児外科漢方研究会

(2014年10月30－31日) 淡路市

**[呼吸器外科]**

**特発性気管狭窄症に対して気管支鏡下レーザー治  
療を行った1例**

鶴岡市立莊内病院

呼吸器外科 正岡俊明、石原 良  
呼吸器科 河上英則、星野芳史

第37回日本呼吸器内視鏡学会 (2014年4月15日) 京都

**鈍的外傷による横隔膜損傷に対して完全胸腔鏡下  
手術を行った2例**

鶴岡市立莊内病院 呼吸器外科 正岡俊明、石原 良  
第31回日本呼吸器外科学会総会

(2014年 5月 30日) 東京

**当院での胸腔鏡下区域切除術**

**～右上葉例での検討～**

鶴岡市立莊内病院 呼吸器外科 正岡俊明

第9回山形呼吸器外科研究会

(2014年10月18日) 山形市

**[整形外科]**

**膝蓋骨の安定性に骨性制動が重要と思われた1例**

鶴岡市立莊内病院

整形外科 細野泰照、望月友晴、村岡 治、  
後藤真一、浦川貴明、河内俊太郎、  
庄司寛和、捧 陽介

第217回新潟整形外科研究会

(2014年 3月 8日) 新潟市

**内側半月板後角断裂に対して transtibial pull-out  
suture を施行した2例**

鶴岡市立莊内病院

整形外科 望月友晴、村岡 治、後藤真一、

浦川貴明、河内俊太郎、庄司寛和、  
細野泰照、捧 陽介

第217回新潟整形外科研究会

(2014年3月8日) 新潟市

Fibrin Clotを用いた半月板縫合の当院の工夫

鶴岡市立荘内病院

整形外科 村岡 治、望月友晴、後藤真一、  
浦川貴明、河内俊太郎、庄司寛和、  
細野泰照、捧 陽介

第217回新潟整形外科研究会

(2014年3月8日) 新潟市

大小2本のラグスクリューを骨頭内に挿入可能な  
新たなCHSシステムAnti Rotation Hip Screw  
(ARHS)はcut out率を低減させる

鶴岡市立荘内病院

整形外科 捧 陽介、勝見亮太、浦川貴明、  
後藤真一、佐藤慎二

第111回東北整形災害外科学会

(2014年6月20日) 秋田市

診断に苦慮した脊椎疾患の2例

鶴岡市立荘内病院

整形外科 浦川貴明、庄司寛和、捧 陽介、  
細野泰照、秦 命賢、村岡 治、  
望月友晴、日向野行正、後藤真一

第37回荘内整形外科医会 (2014年6月28日) 鶴岡市

橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート  
固定後の手指拘縮

鶴岡市立荘内病院

整形外科 後藤真一、庄司寛和

新潟大学医歯学総合病院

整形外科 河内俊太郎

第63回東日本整形災害外科学会

(2014年9月19日) 東京都

手術時の滅菌二重手袋間に付着した水分は無菌か?

鶴岡市立荘内病院

整形外科 浦川貴明、庄司寛和、後藤真一

第219回新潟整形外科研究会

(2014年11月29日) 新潟市

脆弱性恥骨骨折に合併した骨盤輪後方要素損傷の  
検討

鶴岡市立荘内病院

整形外科 秦 命賢、後藤真一、日向野行正、  
浦川貴朗、庄司寛和、穂苅 翔、  
高野岳人、平野優樹

第38回荘内整形外科医会 (2014年11月29日) 酒田市

[小児科]

Association of increased body fat and retinal  
anteriolar narrowing in Overweight/obese  
school children.

Department of Public Health, Yamagata  
University

Ryo Kawasaki, Yumik Kawasaki,  
Atsushi Hirayama,  
Tsuruoka Municipal Shonai Hospital  
Sueshi Ito

Association for Research in Vision and  
Ophthalmology

(2014年5月7日) 米国フロリダ州オーランド

塩酸リトドリンと硫酸マグネシウムの母体長期投与  
により、出生後心機能低下、高カリウム血症を  
きたした新生児の1例

鶴岡市立荘内病院

小児科 庄司圭介、堀口 祥、久保暢大、  
新井 啓、佐藤聖子、佐藤紘一、  
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

第216回日本小児科学会新潟地方会

(2014年5月17日) 新潟市

インフルエンザ・気管支喘息大発作の経過中に可  
逆性後部白質脳症症候群(PRES)をきたした1例

鶴岡市立荘内病院

小児科 新井 啓、堀口 祥、久保暢大、  
佐藤聖子、佐藤紘一、庄司圭介、  
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

第216回日本小児科学会新潟地方会

(2014年5月17日) 新潟市

**遷延する背部痛から診断にいたったLangerhans  
組織球症の女児例**

鶴岡市立莊内病院

小児科 堀口 祥、坂井知倫、新井 啓、  
佐藤聖子、佐藤紘一、庄司圭介、  
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

**第96回日本小児科学会山形地方会**

(2014年5月18日) 山形市

**山形県における小児肥満対策について**

山形大学医学部

小児科 沼倉周彦、早坂 清

鶴岡市立莊内病院 小児科 伊藤末志

日本海総合病院 木村敏之

勝島小児科医院 勝島由利子

山形県小児保健会

山形県医師会 渡辺真史

**第96回日本小児科学会山形地方会**

(2014年5月18日) 山形市

**新生児仮死がなかったにも関わらず低酸素性虚血  
性脳症（HIE）を発症した新生児例**

鶴岡市立莊内病院

小児科 坂井知倫、堀口 祥、新井 啓、  
佐藤紘一、佐藤聖子、庄司圭介、  
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

**第31回山形県周産期・新生児医療研究会**

(2014年6月7日) 山形市

**鶴岡市における小児救急医療への取り組み**

鶴岡市立莊内病院

小児科 佐藤紘一、坂井知倫、堀口 祥、  
新井 啓、佐藤聖子、庄司圭介、  
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

**第28回日本小児救急医学会学術集会**

(2014年6月7日) 横浜市

**SCN2A に変異を認めた、新生児期発症のリドカ  
イン依存性てんかんの1例**

鶴岡市立莊内病院

小児科 庄司圭介、吉田宏

**第50回日本周産期・新生児医学会**

(2014年7月14日) 浦安市

**小児肥満における治療の効果に及ぼす因子の検討**

鶴岡市立莊内病院

小児科 坂井知倫、堀口 祥、新井 啓、  
佐藤紘一、佐藤聖子、庄司圭介、  
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

**第20回山形小児内分泌・代謝研究会**

(2014年7月18日) 山形市

**当院における食中毒性細菌性腸炎の起因菌の変遷  
—1981年から2013年の33年間の便培養から—**

鶴岡市立莊内病院

小児科 堀口 祥、坂井知倫、新井 啓、  
佐藤聖子、佐藤紘一、庄司圭介、  
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

庄内小児科医会

(2014年7月24日) 鶴岡市

**最近当科で経験した気管食道奇形の2例**

鶴岡市立莊内病院

小児科 庄司圭介、坂井知倫、堀口 祥、  
新井 啓、佐藤聖子、佐藤紘一、  
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

第26回新潟周産母子研究会 (2014年7月26日) 新潟市

**グルタミン酸脱水素酵素遺伝子異常の母子例**

鶴岡市立莊内病院

小児科 新井 啓、堀口 祥、久保暢大、  
佐藤聖子、佐藤紘一、庄司圭介、  
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

大阪市立総合医療センター 依藤 亨

第66回北日本小児科学会 (2014年9月21日) 旭川市

**鶴岡市立莊内病院における肺炎球菌菌血症の検討**

鶴岡市立莊内病院

小児科 久保暢大、堀口 祥、新井 啓、  
佐藤聖子、佐藤紘一、庄司圭介、  
齋藤なか、吉田宏、伊藤末志

新潟大学大学院医歯学総合研究科小児科学分野

大石智洋、齋藤昭彦

第46回日本小児感染症学会学術集会

(2014年10月18日) 東京都

コントロール不良のためデスマプレシン経鼻製剤  
から経口剤へ切替えを行った中枢性尿崩症の男児  
例

鶴岡市立荘内病院

小児科 堀口 祥、坂井知倫、新井 啓、  
佐藤聖子、佐藤紘一、庄司圭介、  
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

第2回庄内小児科医会集談会

(2014年10月31日) 酒田市

最近当科で経験した気管食道奇形の2例

鶴岡市立荘内病院

小児科 庄司圭介、坂井知倫、堀口 祥、  
新井 啓、佐藤聖子、佐藤紘一、  
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

第31回庄内周産期懇話会 (2014年11月1日) 鶴岡市

Gradenigo症候群の1例

鶴岡市立荘内病院

小児科 新井 啓、坂井知倫、堀口 祥、  
佐藤聖子、佐藤紘一、庄司圭介、  
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

第98回日本小児科学会山形地方会

(2014年12月7日) 山形市

ロタウイルスワクチン導入前後の同ウイルス感染  
症の動向

鶴岡市立荘内病院

小児科 堀口 祥、坂井知倫、新井 啓、  
佐藤聖子、佐藤紘一、庄司圭介、  
齋藤なか、吉田 宏、伊藤末志

第98回日本小児科学会山形地方会

(2014年12月7日) 山形市

セレウス菌感染症を発症した超低出生体重児の1  
例

鶴岡市立荘内病院

小児科 庄司圭介、坂井知倫、堀口 祥、

新井 啓、佐藤紘一、齋藤なか、

吉田 宏、伊藤末志

第218回日本小児科学会新潟地方会

(2014年12月13日) 新潟市

〔病 理 科〕

診断に苦慮した小型円形細胞腫瘍の一例

鶴岡市立荘内病院 病理科 石栗永里奈

第55回日本臨床細胞学会総会春期大会

(2014年6月6-7日) 横浜市

〔歯科口腔外科〕

上顎前突症患者に対する顎矯正手術後の顎位安定性と上気道形態変化

新潟大学大学院医歯学総合研究科組織再建

口腔外科学分野

長谷部大地、浅井佑介、齋藤大輔、小林正治  
新潟大学大学院医歯学総合研究科組織再建

口腔外科学分野・魚沼市立ゆきぐに大和病院

歯科口腔外科 加納浩之

鶴岡市立荘内病院 歯科口腔外科 本間克彦

新潟大学大学院医歯学総合研究科組織再建

口腔外科学分野・東京歯科大学口腔外科学講座

齊藤 力

第24回日本顎変形症学会総会

(2014年6月10-11日) 福岡市

上顎洞扁平上皮癌に対する根治的放射線併用システム  
プラチン動注化学療法

国際医療福祉大学三田病院

頭頸部腫瘍センター

金子哲治、多田雄一郎、増淵達夫、  
伏見千亩、松本 崇、高橋秀聰、  
田中太邦、猪俣 徹、

千葉德州会病院

頭頸部外科センター 鎌田信悦

鶴岡市立荘内病院

歯科口腔外科 武石越郎

第38回日本頭頸部癌学会

(2014年6月12-13日) 東京都

**LXRアゴニストはコレステロール排出を促進して扁平上皮癌細胞の増殖を抑制する**

福島県立医科大学附属病院

歯科口腔外科 菅野千敬、金子哲治、長谷川博

大原綜合病院 口腔外科・歯科 門馬 勉

大原綜合病院 頭頸部顔面外科 鹿野真人

鶴岡市立荘内病院 歯科口腔外科 武石越郎

福島県立医科大学医学部

基礎病理学講座 千葉英樹

**第38回日本頭頸部癌学会**

(2014年6月12-13日) 東京都

**エピジェネティックス制御化合物による癌血管新生の抑制**

福島県立医科大学附属病院

歯科口腔外科 遠藤 学、菅野千敬、長谷川博

大原綜合病院

頭頸部顔面外科 門馬 勉、鹿野真人

鶴岡市立荘内病院 歯科口腔外科 武石越郎

**第38回日本頭頸部癌学会**

(2014年6月12-13日) 東京都

**下顎骨区域切除後における下顎位の再現法**

-Tominagaの方法で行った3症例について

福島県立医科大学附属病院

歯科口腔外科 秋本哲男、菅野千敬、遠藤 学

工藤聖美、菅野 寿、長谷川博

大原綜合病院

歯科口腔外科 門馬 勉

鶴岡市立荘内病院

歯科口腔外科 武石越郎

**第40回日本口腔外科学会 北日本支部学術集会**

(2014年6月21-22日) 秋田市

**病的骨折に対して保存的治療により骨癒合が得られたビスフォスフォネート関連顎骨壊死の1例**

鶴岡市立荘内病院

歯科口腔外科 塙 健志、武石越郎、本間克彦

新潟大学大学院医歯学総合研究科

組織再建口腔外科学分野

竹内玄太郎、菅井登志子

新潟大学大学院医歯学総合研究科

顎顔面放射線学分野 林 孝文

第40回日本口腔外科学会 北日本支部学術集会

(2014年6月21-22日) 秋田市

**山形県がん診療連携拠点病院歯科口腔外科における周術期口腔機能管理の現状**

日本海総合病院 歯科口腔外科

柴田 肇、櫻井博理

山形大学医学部 歯科口腔・形成外科学講座

飯野光喜、橘 寛彦、山森 郁、吉田雪絵

山形県立中央病院 歯科口腔外科 濱本宜興

公立置賜総合病院 歯科口腔外科 小林武仁

山形市立病院済生館 歯科口腔外科 井上右子

鶴岡市立荘内病院 歯科口腔外科 塙 健志

**第59回日本口腔外科学会総会**

(2014年10月17-19日) 千葉市

**[中央検査科]**

**ブレイクポイント変更による結果報告の影響**

鶴岡市立荘内病院 中央検査科 中嶋知子

**第35回山形県医学検査学会**

(2014年10月25-26日) 長井市

**[薬 局]**

**分子標的薬服用中患者の栄養管理に対するNST  
薬剤師の役割**

鶴岡市立荘内病院

薬 局 佐藤拓也、田中大輔

看護部 秋野博子、石井 佳

栄養科 富樫博子

中央検査科 鈴木貴志

リハビリテーションセンター 百瀬知依

外 科 二瓶幸栄

**第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会**

(2014年2月27日-28日) 横浜市

**入院初回面談によってアルコール不耐性が疑われた肺癌症例**

鶴岡市立荘内病院 薬 局 草島宏平

日本病院薬剤師会東北ブロック第4回学術大会

(2014年5月31- 6月1日) 仙台市

褥瘡回診記録の充実を目指して

鶴岡市立病院

薬局 富樫敦子

看護部 梅本貴子、百瀬幸、五十嵐可奈子

医事課 篠津緑

形成外科 原田慶美、工藤勝秀

第11回日本褥瘡学会東北地方学術集会

(2014年6月28日) 山形市

「褥瘡チーム回診記録」のアンケート調査

鶴岡市立病院

薬局 富樫敦子

看護部 梅本貴子、百瀬 幸

形成外科 工藤勝秀

第16回日本褥瘡学会学術集会

(2014年8月29-30日) 名古屋市

当院の病棟薬剤管理業務の現状について

鶴岡市立病院

薬局 佐藤拓也、鎌田敬志、佐藤 導

第24回日本医療薬学会年会

(2014年9月27-28日) 名古屋市

フェンタニル貼付剤とオキシコドン注の併用が有効だった1例

鶴岡市立病院

薬局 大井直子、阿部和人

内科 和泉典子

外科 鈴木 聰

第8回日本緩和医療薬学会年会

(2014年10月3-5日) 松山市

薬剤師業務の見直しと病棟薬剤業務実施加算算定の取り組み

鶴岡市立病院

薬局 佐藤 導

第53回全国自治体病院学会

(2014年10月30-31日) 宮崎市

ワンタッチウルトラビューとワンタッチペンへ交換3年後の血液浄化療法センター通院患者へのアンケート調査

鶴岡市立病院

薬局 鎌田敬志

看護部 宅井さやか

第3回日本くすりと糖尿病学会

(2014年11月2-3日) 福岡市

[リハビリテーションセンター]

褥瘡ラウンドにおける理学療法士の活動報告

鶴岡市立病院

リハビリテーションセンター 小林 拓

第53回全国自治体病院学会

(2014年10月30-31日) 宮崎市

当院におけるAMI患者への心臓リハビリテーションプログラムの有用性について

～在院日数と安全性の視点から～

鶴岡市立病院

リハビリテーションセンター 濑尾章央

第23回山形県理学療法士学術大会

(2014年6月21日) 山形市

急性期脳卒中患者の坐位獲得を目指して

鶴岡市立病院

リハビリテーションセンター 佐太木淳一

第23回山形県理学療法士学術大会

(2014年6月21日) 山形市

「わたしの健康ノート」の作成、運用について

鶴岡市立病院

リハビリテーションセンター 渡部美穂

第15回日本クリニカルパス学会学術集会

(2014年11月14日) あらわ市

[看護部]

術後に創トラブルを起こした児のストーマ管理の報告

鶴岡市立病院

看護部 中野早苗

第23回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会

(2014年5月16-17日) 大宮市

NSTとの協働による胃瘻管理の取り組み

鶴岡市立莊内病院 看護部 梅本貴子

第23回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会

(2014年5月16-17日) 大宮市

鶴岡市立莊内病院

看護部 栗田 香

第6回J感染制御ネットワークフォーラム

(2014年8月23日) 仙台市

褥瘡保有者の退院指導フローの作成

鶴岡市立莊内病院

看護部 佐藤 南

第11回日本褥瘡学会東北地方学術集会

(2014年6月28日) 山形市

褥瘡の新規発生率とリンクナースの役割に対する  
やりがいと負担感の変化

鶴岡市立莊内病院 看護部 百瀬 幸

第16回日本褥瘡学会学術集会

(2014年8月29-30日) 名古屋市

2型糖尿病における脳梗塞発症予防の要因分析

鶴岡市立莊内病院

看護部 百瀬 幸

第2回日本糖尿病協会療養指導学術集会

(2014年7月12-13日) 京都市

褥瘡予防強化に向けたラウンド導入の報告

鶴岡市立莊内病院 看護部 梅本貴子

第16回日本褥瘡学会学術集会

(2014年8月29-30日) 名古屋市

急性期からの栄養評価と管理の取り組み

鶴岡市立莊内病院 看護部 若生 円

日本医療マネジメント学会 山形県支部学術集会

(2014年7月19日) 山形市

日光浴・レクレーション導入によりせん妄患者の  
変化

鶴岡市立莊内病院

看護部 馬場 和

第45回日本看護学会 慢性期看護

(2014年9月11-12日) 徳島市

巨大褥瘡患者に対するチームでのかかわり  
－リンクナースとしてのチームマネジメント－

鶴岡市立莊内病院

看護部 渡部美佳

日本医療マネジメント学会 山形県支部学術集会

(2014年7月19日) 山形市

高校1年生に『命の大切さ』を伝える性教育講座  
を実施して

鶴岡市立莊内病院

看護部 本間 文

第45回日本看護学会 看護教育

(2014年9月17-18日) 新潟市

人工呼吸器関連肺炎防止への取り組み

鶴岡市立莊内病院 看護部 佐藤さおり

日本医療マネジメント学会 山形県支部学術集会

(2014年7月19日) 山形市

当院における疥癬アウトブレイク対応の実際と今  
後の課題

鶴岡市立莊内病院 看護部 若松由紀子

第13回山形県インフェクションコントロール研究会

(2014年9月20日) 山形市

地方基幹病院における連日介入\_RSTの活動成果

鶴岡市立莊内病院

看護部 三浦良哉

第36回呼吸療法医学会学術集会

(2014年7月19-20日) 秋田市

病院看護師の訪問看護師同行研修の課題

－訪問看護師同行研修の振り返りから－

鶴岡市立莊内病院

看護部 富樫 清

第45回日本看護学会 在宅看護

(2014年10月2-3日) 山形市

下部消化管SSI発生率の変化とサーベイランスの  
効果

# III 脳 外 講 演

## 〔神 経 内 科〕

### 認知症を知る～認知症かな、と思ったら～

鶴岡市立荘内病院 神経内科 丸谷 宏

鶴岡市認知症患者家族教室

(2014年1月18日、3月8日、5月17日、9月20日)

### 脳卒中の発症予防について

鶴岡市立荘内病院 神経内科 丸谷 宏

朝日健康のつどい

(2014年2月2日)

### 脳の若さを保つコツ～認知症の予防と対策

鶴岡市立荘内病院 神経内科 丸谷 宏

第6学区認知症講演会

(2014年2月28日)

### 高血圧と高血糖はなぜこわい

鶴岡市立荘内病院 神経内科 丸谷 宏

鶴岡市第三学区健康講演会

(2014年7月18日)

### 慢性腎臓病と脳血管障害

#### ～腎臓から脳卒中や認知症を予防しよう～

鶴岡市立荘内病院 神経内科 丸谷 宏

第6回市民公開セミナー 鶴岡天腎祭

(2014年9月28日)

### 糖尿病と関係の深い認知症

鶴岡市立荘内病院 神経内科 丸谷 宏

第20回糖尿病のつどい

(2014年10月19日)

### 脳卒中の予防と徵候

#### ～こんな症状に気をつけよう～

鶴岡市立荘内病院 神経内科 丸谷 宏

ゆらっくす健康講座

(2014年11月28日)

## 〔外 科〕

### 乳がんのさまざまな治療法

荘内病院診療部主幹、外科 鈴木 聰

### 第5回つるおか健康塾

(2014年1月18日)

### 鶴岡地区の乳がん検診と当科の乳がん診療

鶴岡市立荘内病院 外科 鈴木 聰

乳がん検診成人病従事者指導講習会

(2014年1月29日)

### 庄内プロジェクト概要

鶴岡市立荘内病院 外科 鈴木 聰

長野県東御市議会の行政視察 (2014年4月23日)

### がん緩和ケア OPTIM プロジェクトが地域にもたらした変化

鶴岡市立荘内病院 外科 鈴木 聰

日本都市センター研究室視察 (2014年9月24日)

### 緩和ケアについて

緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川

鶴岡市立荘内病院 外科 鈴木 聰

庄内プロジェクト 第8回緩和ケア市民公開講座

命はそんなにやわじゃない2

(2014年10月5日)

### 緩和ケア研修会の開催にあたって

地域連携

鶴岡市立荘内病院 外科 鈴木 聰

平成26年度第3回山形県緩和ケア研修会

(2014年10月12-13日)

### 地域住民の安心感を支える～がん緩和ケア

#### 『庄内プロジェクト』の挑戦～

鶴岡市立荘内病院 外科 鈴木 聰

第3回ほっこり能登プロジェクト 市民公開講座

(2014年12月14日)

**医科歯科病診連携でがん治療合併症を減らそう！**

鶴岡市立莊内病院 外科 鈴木 聰

莊内病院地域医療連携協議会合同懇談会

(2014年12月16日)

**[小児科]**

**小児救急疾患の取り扱い方について**

鶴岡市立莊内病院 小児科 佐藤紘一

鶴岡地区医師会小児救急講習会 (2014年1月30日)

**幼児肥満の害について①**

鶴岡市立莊内病院 小児科 伊藤末志

鶴岡市元気キッズ教室 (2014年3月6日)

**小児の救急疾患への対応**

鶴岡市立莊内病院 小児科 佐藤紘一

平成26年度小児救急医療講習会in民田保育園

(2014年5月16日)

**幼児肥満の害について②**

鶴岡市立莊内病院 小児科 伊藤末志

鶴岡市元気キッズ教室 (2014年6月20日)

**小児の救急疾患への対応**

鶴岡市立莊内病院 小児科 吉田 宏

平成26年度小児救急医療講習会inひばり保育園

(2014年7月12日)

**小児の救急疾患への対応**

鶴岡市立莊内病院 小児科 斎藤なか

平成26年度小児救急医療講習会inいなば幼稚園

(2014年7月18日)

**小児の救急疾患への対応**

鶴岡市立莊内病院 小児科 伊藤末志

平成26年度小児救急医療講習会in鶴岡市子育て支援

センター (2014年9月9日)

**幼児肥満の害について③**

鶴岡市立莊内病院 小児科 伊藤末志

鶴岡市元気キッズ教室 (2014年9月12日)

**小児の救急疾患への対応**

鶴岡市立莊内病院 小児科 伊藤末志

平成26年度小児救急医療講習会in和光幼稚園

(2014年9月20日)

**早寝早起き朝ごはん、そしてメディア制限**

鶴岡市立莊内病院 小児科 吉田 宏

すこやかネット出前子育て懇談会in羽黒第二小学校

(2014年10月6日)

**パパとママがつくる赤ちゃんとの楽しい暮らし**

鶴岡市立莊内病院 小児科 吉田 宏

鶴岡市子ども家庭支援センター

ベビーを迎える講座 (2014年11月3日)

**子どもの発育と生活リズム&子どもの病気**

鶴岡市立莊内病院 小児科 伊藤末志

平成26年度鶴岡市子育てセンター基礎講習

(2014年11月4日)

**小児の救急疾患への対応**

鶴岡市立莊内病院 小児科 伊藤末志

平成26年度小児救急医療講習会in東部保育園

(2014年11月7日)

**小児の救急疾患への対応**

鶴岡市立莊内病院 小児科 吉田 宏

平成26年度小児救急医療講習会in湯田川保育園

(2014年11月15日)

**小児の救急疾患への対応**

鶴岡市立莊内病院 小児科 斎藤なか

平成26年度小児救急医療講習会in鶴岡幼稚園

(2014年11月15日)

**中学生の不定愁訴について**

鶴岡市立莊内病院 小児科 吉田 宏

すこやかネット出前子育て懇談会in鶴岡第三中学校

(2014年11月19日)

### 新生児疾患と救急対応

鶴岡市立荘内病院 小児科 吉田 宏

平成26年度山形県消防学校救急科

(2014年11月21日)

### 小児の救急疾患への対応

鶴岡市立荘内病院 小児科 佐藤紘一

平成26年度小児救急医療講習会in大山保育園

(2014年11月28日)

### ゲームやメディアとのつきあい方

鶴岡市立荘内病院 小児科 吉田 宏

すこやかネット出前子育て懇談会in大山小学校

(2014年11月28日)

### 小児疾患と救急対応

鶴岡市立荘内病院 小児科 伊藤未志

平成26年度山形県消防学校救急科

(2014年12月3日)

### 幼児肥満の害について④

鶴岡市立荘内病院 小児科 伊藤未志

鶴岡市元気キッズ教室 (2014年12月19日)

#### [薬局]

### 褥瘡における外用薬・被覆材の使い分け

鶴岡市立荘内病院 薬局 富樫敦子

平成25年度第2回つるやくネットワーク学習会

(2014年3月17日)

### オピオイドの服薬指導について記号

#### ～こんな時どうする?～

鶴岡市立荘内病院 薬局 阿部和人

平成26年度第1回つるやくネットワーク学習会

(2014年4月23日)

### 不規則勤務の方に対してのインスリン導入指導を通して

鶴岡市立荘内病院 薬局 石川大介

第5回荘内薬剤師糖尿病講演会

(2014年7月5日)

### がん治療レジメンのお薬手帳へのシール活用について

鶴岡市立荘内病院 薬局 石川大介

平成26年度第2回つるやくネットワーク学習会

(2014年11月6日)

### 当院におけるオキサリプラチンアレルギー反応の集計

鶴岡市立荘内病院 薬局 阿部和人

平成26年度第4回山形県がん化学療法セミナー

(2014年11月16日)

#### [リハビリテーションセンター]

### 認知症と運動療法

鶴岡市立荘内病院

リハビリテーションセンター 佐々木淳一

第6回天腎祭

(2014年9月28日)

#### [看護部]

### 経口抗癌剤、医療用麻薬使用時のコツと注意点

鶴岡市立荘内病院

看護部 佐々木孔美、上林沙希子

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院研修会

(2014年5月22日)

### 最期まで心とお口に潤いを

鶴岡市立荘内病院

看護部 上林沙希子

介護老人保健施設みづばしょう研修会

(2014年10月21日)

### 小児科入院棟における感染性胃腸炎に対する取り組み～家族指導にベスプラ手順を活用して～

鶴岡市立荘内病院 看護部 庄司敦子

庄内感染対策セミナー

(2014年11月29日)

## IV 院内各種研修会

### [神 経 内 科]

#### 認知症を支える医療者の役割

外来看護部研究会

丸谷 宏

(2014年9月16日)

- a) インフルエンザ、気管支喘息大発作の経過中に可逆性後部白質脳症症候群（PRES）を来した1例

新井 啓

- b) 遷延する背部痛から診断に至ったLangerhans細胞組織球症の女児例

堀口 祥

- c) 過去5年間に当科で経験した入院加療を要する事故

坂井知倫

<追加>最近の感染症の流行状況

- (短期間にインフルエンザB型の2種類に罹患した1例)

伊藤末志

- 3) 最近の抄読会から

庄司圭介

### [小 児 科]

#### 第八十六回莊内病院小児科病診連携研究会

日時：平成26年1月22日（水曜日）

場所：莊内病院三階講堂

内容：

- 1) 平成25年10月から同年12月までの紹介患者経過報告

佐藤紘一

- 2) トピックス

- a) 乳房腫脹を契機に発見された副腎腫瘍の1男児例

佐藤聖子

- b) 咽後水腫をきたした川崎病の1例

堀口 祥

- c) 腎瘢痕をきたした腎臓瘍の1例

新井 啓

- d) 当院で経験した肺炎球菌による菌血症例の検討

久保暢大

<追加> 最近の感染症の流行状況

伊藤末志

- 3) 最近の抄読会から

庄司圭介

#### 第八十七回莊内病院小児科病診連携研究会

日時：平成26年4月23日（水曜日）

場所：莊内病院三階講堂

内容：

- 1) 平成26年1月から同年3月までの紹介患者経過報告

佐藤紘一

- 2) トピックス

- a) インフルエンザ、気管支喘息大発作の経過中に可逆性後部白質脳症症候群（PRES）を来した1例

新井 啓

- b) 遷延する背部痛から診断に至ったLangerhans細胞組織球症の女児例

堀口 祥

- c) 過去5年間に当科で経験した入院加療を要する事故

坂井知倫

<追加>最近の感染症の流行状況

- (短期間にインフルエンザB型の2種類に罹患した1例)

伊藤末志

- 3) 最近の抄読会から

庄司圭介

#### 第八十八回莊内病院小児科病診連携研究会

日時：平成26年7月23日（水曜日）

場所：莊内病院三階講堂

内容：

- 1) 平成26年4月から同年6月までの紹介患者経過報告

佐藤紘一

- 2) トピックス

- a) 当院における食中毒性細菌性腸炎の起炎菌の変遷

堀口 祥

- b) グルタミン酸脱水素酵素異常症の母子例

新井 啓

- c) 肥満児における治療効果の背景に関する検討

坂井知倫

- d) エルシニア感染症が疑われた兄妹例

角谷梨花

- 3) 最近の抄読会から

庄司圭介

**第八十九回莊内病院小児科病診連携研究会**

日時：平成26年11月14日（金曜日）

場所：莊内病院三階講堂

内容：

1) 平成26年7月から同年9月までの紹介患者経過

報告

佐藤紘一

2) トピックス

a) 当科で入院治療を行った気管支喘息発作患児の動向（その1）

佐藤紘一

b) ロタウイルスの予防接種導入前後の流行状況  
堀口 祥c) 悪性リンパ腫の早期発見に可溶性IL-2受容体の測定が有効であった1例  
坂井知倫d) 最近当科で経験した気管食道奇形の2例  
庄司圭介

&lt;追加&gt;最近の感染症流行状況

伊藤未志

3) 最近の抄読会から

庄司圭介

**[中央検査科]****中央検査科、病理科勉強会****HER乳癌治療について**

(2014年12月10日) 中外製薬

**HER病理改訂ポイント**

(2014年12月17日) 中外製薬

**HER胃癌治療について**

(2015年1月21日) 中外製薬

**TAT業務調査報告**

(2015年3月19日)

ロシュ・ダイアグノスティックス

**[薬局]****注意すべき薬剤等について**

佐藤 導、鎌田敬志、富樫敦子

平成26年度看護部新採用者研修会

(2014年4月7日)

**医療用麻薬選択のコツと注意点**

阿部和人

緩和ケア入門講座

(2014年5月22日)

**オピオイドラインアップ****～使い方のコツ part2～**

阿部和人

平成26年度第7回「キャンサーボード鶴岡」

(2014年11月18日)

**抄読・勉強会**

2014年1月15日

**Penicillin to Prevent Recurrent Leg Cellulitis**

(N Engl J Med 2013; 368: 1695-1703)

國分広志

2014年2月13日

**Parenteral Nutrition-Induced Cholestasis in Neonates: Where Does the Problem Lie?**

(Gastroenterology Research and Practice Volume 2013 Article ID 163632, 6 pages)

五十嵐康郎

2014年3月12日

**Reversed dipper blood-pressure pattern is closely related to severe renal and cardiovascular damage in patients with chronic kidney disease.**

(Plos One.2013;8(2))

吉田 謙

2014年5月21日

**Reconsideration of Pathogenesis of Hyponatremia after Subarachnoid Hemorrhage.**

(脳外誌1998; 7: 548-553)

堀 恵美

2014年 6月11日

THE 2014 PROHIBITED LIST WORLD ANTI-DOPING CODE

(WORLD ANTI-DOPING AGENCY)

庄司知摩

2014年 7月23日

Tofacitinib versus Methotrexate in Rheumatoid Arthritis

(N Engl J Med 2014 ; 370 : 2377-2386)

清野由利

2014年 9月25日

Outpatient Glycemic with a Bionic Pancreas in Type 1 Diabetes

(N Engl J Med 2014 ; 371 : 313-325)

鎌田敬志

2014年10月 8日

Dogs May Help Spot Human Prostate Cancers, Study Finds

(HealthDay May 19,2014)

阿部和人

2014年11月12日

ASCO and Cancer Care Ontario Issue New Guideline on Treating Metastatic Castration-Resistant Prostate Cancer

(FOR IMMEDIATE RELEASE:September 8,2014)

五十嵐昌美

[リハビリテーションセンター]

移乗動作やポジショニングの実技研修

看護部技術研修会「安全な移動と体位」

(2014年 4月24日)

## 〔看護部〕

## 平成26年度看護部研修会

分 区	研修コース	期 日	研修内 容
必 須 研 修	新採用者研修	4月3日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院施設見学</li> </ul>
		4月2日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護部教育計画と新採用者教育について 講師：教育委員長 看護係長 佐藤 郁</li> <li>看護部長講話：看護部長 佐藤 さゆり</li> <li>講義：「勤務にあたってのオリエンテーション」 講師：看護副部長 河田 夏子</li> <li>講義：「医療事故予防対策について」 講師：医療安全管理室 看護主査 富樫 恭子</li> </ul>
		4月3日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>S-HIS 看護システムについて</li> <li>講義：「外来から入院までの流れ」 講師：看護副部長 佐藤 千鶴子</li> <li>講義：「看護システム（記録）について」 講師：看護記録委員会 看護係長 金子 弘美</li> <li>講義：「看護診断・記録の実際について」 講師：看護記録推進・必要度委員会 小林 千穂 柴田 真由子</li> <li>演習：「入院棟での電子カルテ操作練習」 フロア担当：入院棟記録推進・必要度委員</li> <li>講義：「看護必要度について」 講師：看護記録推進・必要度委員会 看護主任 五十嵐君花 伊藤美緒</li> </ul>
		4月4日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義：「医療機器使用時の安全な看護」 講師：医療安全管理室 看護主査 富樫 恭子 ファシリテーター：富樫 恭子 牧 順 三浦 良哉</li> </ul>
		4月7日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義：「注意すべき薬剤等について」 講師：薬局長 佐藤 導</li> <li>講義：「糖尿病治療の薬物療法」 講師：薬剤専門員 鎌田 敬志</li> <li>講義：「点滴時間に注意する薬剤について」 講師：主任薬剤師 富樫 敦子</li> <li>講義：「看護師としての倫理とは」 講師：看護倫理委員会 看護主任 三浦 栄子</li> </ul>
		4月8日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>採血・注射技術研修 講師：看護業務委員会（手順）</li> <li>講義：「注射の安全について」 講師：看護係長 渡部 泰恵子</li> <li>講義：「注射の業務マニュアル」 講師：看護主任 後藤 千詠子</li> <li>講義：「皮下注射・筋肉注射について」 講師：看護主任 三浦 昌子</li> <li>講義：「採血・静脈注射について」 講師：看護主任 後藤 千詠子</li> <li>講義：「血糖測定について」 講師：看護係長 渡部 泰恵子</li> <li>採血・皮下・筋肉・静脈注射の実技演習</li> </ul>
		4月11日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義：「医療従事者に必要な感染対策の基本」 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子</li> </ul>

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修			感染リンクナース 本間 春圭 今野 亜矢子 • 講義：「安全に輸血を行うために－当院の輸血手順－」 講師：輸血療法委員 看護主幹 佐藤 順
		4月24日（木）	• 講義：「食事介助・マウスケア・摂食・嚥下について」 講師：NST委員会 NST専従看護師 石井 佳 リハビリST 百瀬知依 歯科口腔衛生士 鶴巻 佳那 • 講義：「当院の地域医療連携及び退院調整について」 講師：地域医療連携室 看護主査 富樫 清 • 講義・実技演習：「導尿の仕方の看護援助」 講師：教育委員会 看護主任 難波 裕子 • 講義：「安全な移動と体位」 講師：PT 小林 拓 本間 司 瀬尾 章央 佐太木淳一 森 和浩 佐藤麻人
		5月2日（金）	• 講義・演習「スキンケア」 講師：皮膚・排泄認定看護師 看護主任 梅本 貴子 • 講義：「メンタルヘルスケアについて」 講師：臨床心理士 柏倉 貢
		6月25日（水）	• 演習：「今の自分を振り返り、表現してみませんか」 講師：教育委員 看護主任 加藤 恒子 • グループワーク『自分を認めて、明日からどうしたらよいか』 • 講義：「フィジカルアセスメント」 講師：集中ケア認定看護師 三浦 良哉
		6月27日（金）	出張 新人研修I コミュニケーション 社会人基礎力を身につけよう！
		8月26日（火）	出張 新人研修II 救急看護 こんな時どうする！急変時の対応
		10月21日（火）	出張 新人研修III 医療安全 患者と自分を守る感性とコミュニケーション
		11月11日（火）	出張 新人研修IV ファイナル キャリアアップへの第一歩
		7月4日（金）	• 講義・演習：「胃瘻・腸瘻について」 講師：NST委員会 看護係長 秋野 博子 石井 佳
		9月19日（金）	• 講義・演習：「胃管挿入の実際」 講師：NST委員会 看護係長 井上裕子 看護係長 秋野博子 石井 佳
		9月25日（木）	• 講義：「ケアに活かすための感染対策」 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子 • 講義：「微生物検査における検体採取」 講師：中央検査科 大塚 隼人
		9月1日（月） ～ 11月14日（金）	• 臨床研修（集中治療センター、手術センター） 1) 手術中の全身管理と看護 2) 基本的な看護技術・フィジカルアセスメント等を習得する 3) 術後の全身管理、輸液、輸血管管理、輸液ポンプ管理・ドレーン管理 4) 急性期における疾患患者の基本的看護
		平成27年 2月10日（火）	1年の振り返り研修 • レポート発表 『担当患者との関わりからの学んだこと、今後の課題』 • 先輩ナースからのメッセージ 3年目ナース : 8階西入院棟 阿部 希 中堅ナース : N I C U 榎本 朋 リーダーナースI : 手術センター 阿部 和佳 リーダーナースII : 4階東入院棟 山本 麻衣 • グループワーク『2年目ナースとしての取り組み』

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修	既卒新採用者	平成27年 2月4日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の飛び級制度についての説明</li> <li>・フリートーク『今年度受講した研修についての意見交換』</li> </ul>
	新採指導者研修	4月14日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション 新採用者・2年目研修内容・チェックリストの説明 既卒者の研修についてオリエンテーション 講師：教育委員長 佐藤 郁</li> <li>・講義：「成人の学習に対する基礎知識」 講師：臨床指導委員会 看護主任 菅原 園子</li> <li>・新採用者との企画について</li> </ul>
		6月26日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習 「新採用者が起こしやすいヒヤリハットについて」 講師：医療安全管理室 看護主査 富樫 恭子</li> <li>・教育担当者企画の研修1G～指導力を向上させていくために～ 講義 「応援します 新人育成」</li> <li>・3ヶ月の振り返り</li> <li>・事例を通してのグループワーク ～ファシリテーター 教育担当係長 6名～</li> </ul>
		10月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育担当者企画の研修2G～6ヶ月を振り返り今後の指導について考える～</li> <li>・自己評価表のデーターからみた6ヶ月の振り返り結果報告</li> <li>・グループワーク「結果からの感想・後期の課題」 ～ファシリテーター 教育担当係長 6名～</li> <li>・講義 「ともに考えよう 新人育成」</li> <li>・問題形式 新人看護師指導のQ&amp;A</li> </ul>
		平成27年 2月20日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年の振り返り研修 成果発表会 『1年間の指導を振り返って』</li> <li>・グループワーク 『1年間を振り返り、部署における新人看護師の教育について考える』</li> </ul>
	教育担当者研修	4月10日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義：「職場における教育担当者としての役割」 講師：教育担当統括主幹 蜂井 妙子</li> <li>・講義：「教育担当者の取り組みの実際について 調査報告」 講師：教育委員 看護主査 伊藤 淑子</li> </ul>
		5月30日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク 『指導者を支援するための具体的企画について』</li> </ul>
		6月26日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(指導者をフォロー・サポートするための研修実践1G) 新採指導者へ 「指導力を向上させていくために」 講義 「応援します 新人育成」</li> <li>・3ヶ月の振り返り</li> <li>・事例を通してのグループワーク ～ファシリテーター 教育担当係長 6名～</li> </ul>
		7月17日(木) 7月18日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>出張 研修責任者・教育担当者研修 ～ともに考えよう♪新人育成!!～</li> </ul>
		10月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(指導者をフォロー・サポートするための研修実践2G) 新人指導者へ 「6ヶ月を振り返り今後の指導について考える」</li> <li>・自己評価表のデーターからみた6ヶ月の振り返り結果報告</li> <li>・グループワーク「結果からの感想・後期の課題」 ～ファシリテーター 教育担当係長 6名～</li> <li>・講義 「ともに考えよう 新人育成」</li> <li>・問題形式 新人看護師指導のQ&amp;A</li> </ul>

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修		平成27年 2月20日（金）	・グループワーク 『教育担当者としての1年を振り返ってー企画研修を実践してー』
		3月26日（木）	・年間計画（新採用者・2年目ナース・指導者）の説明 担当：教育委員
	2年目ナース研修	5月1日（木） 11月12日（水）	出張 看護研究の実践ー研究計画を作成しよう！－
		4月18日（金）	・2年目ナース研修年間計画についての説明 講師：教育委員 丸山 リカ ・講義：「2年目ナースの役割と心得・メンバーシップとは」 講師：教育委員 看護主任 難波 裕子 ・グループワーク 『2年目ナースとして求められること』
		6月19日（木）	通常総会・職能研修会
		7月18日（金）	・講義：「2年目の医療安全について」 講師：5階西入院棟 看護係長 牧 順 ・講義：「フィジカルアセスメント」 講師：集中ケア認定看護師 三浦 良哉
		10月23日（木）	・講義：「フィッシュ！哲学」 講師：地域医療連携室 看護係長 梶谷 まゆみ ・講義：「アサーティブコミュニケーション」 講師：4階東入院棟 看護主査 斎藤 恒子 ・ナラティブ 「心に残った看護体験を書いてみよう」
		平成27年 3月5日（木）	・実践レポート発表「後輩育成に活かす自分の役割」 ・3年目へ向けての決意表明・発表
	3年目ナース研修	4月16日（水）	・3年目ナース研修オリエンテーション ・研究計画書の記載方法や研究集録の記載方法 講師：教育委員 看護係長 舟見 美和子
		7月24日（木）	・講義：「メンバーシップ、リーダーシップとは」 講師：教育委員会 看護主任 丸山 リカ ・講義：「問題解決能力について」 講師：教育委員会 看護係長 舟見 美和子 ・実践：カテゴリー化 グループワーク 「チーム活動で悩んでいることを解決していくためには」
		9月11日（木）	・講義：「医療安全は危険予測から」 講師：5階西入院棟 看護係長 牧 順 ・事例研究について 担当：教育委員 看護係長 舟見 美和子 ・事例研究発表 ・グループワーク「事例研究を通し、より良い看護実践にむけた今後の課題」
		平成27年 1月22日（木）	
役 割 研 修	中堅ナース研修	4月21日（月）	・中堅ナース研修オリエンテーション 講師：教育委員会 看護係長 成澤 知美
		5月29日（木）	・講義：「医療安全対策についてー事例を分析してみようー」 講師：看護係長 大瀧 志保 ファシリテーター：医療安全管理室 看護主査 富樫 恒子
		6月12日（木）	・演習：「私の看護のこだわり」
		8月20日（火）	講師：教育委員 看護係長 成澤 知美 出張 中堅看護師が元気になるためにー大切なわたし、大切なあなたー
		9月2日（火）	・講義：「莊内病院のチーム医療体制」 講師：看護主幹 丸山 邦 ・グループワーク

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
役割研修	リーダーナース研修 I		『莊内病院のチーム医療を知り、自分の役割を考えよう』
		10月31日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義：「成人教育に必要な基礎知識」 講師：臨床指導委員会 濵谷 佑子</li> <li>・グループワーク</li> </ul>
		平成26年 1月27日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年の振り返り プレゼンテーション 自分のキャリアプラン 『これから目指したい看護』</li> </ul>
		4月21日（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーナース I 研修オリエンテーション 講師：教育委員会 看護係長 成澤 知美 看護係長 佐藤 郁</li> <li>・看護研究オリエンテーション 看護研究要項より 講師：看護研究委員長 奥井 麻里</li> <li>・看護研究 研究の倫理的配慮について 講師：看護研究委員 看護係長 金子 弘美</li> <li>・看護研究 研究計画書の書き方 講師：看護研究委員 五十嵐 加奈子</li> <li>・看護研究 文献検索について 講師：看護研究委員 齋藤 美記</li> </ul>
		5月29日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義：「医療安全対策について ー事例を分析してみようー」 講師：医療安全管理室 看護係長 大瀧 志保 ファシリテーター：医療安全管理室 看護主査 富樫 恒子</li> </ul>
		6月20日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義：「莊内病院の現状と今後の展望」 講師：事務部長 加賀山 誠</li> <li>・講義：「看護管理とリーダーシップ」 講義：看護部長 佐藤 さゆり</li> </ul>
		9月5日（木）	出張 看護倫理 ー倫理的ジレンマへの対応ー
		12月19日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護研究発表</li> <li>・グループワーク 『看護研究を通して学んだこと』</li> </ul>
	リーダーナース研修 II	4月21日（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーナース II 研修オリエンテーション 講師：教育委員会 看護係長 成澤 知美</li> </ul>
		5月29日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義：「医療安全対策について ー事例を分析してみようー」 講師：医療安全管理室 看護係長 大瀧 志保 ファシリテーター：医療安全管理室 看護主査 富樫 恒子</li> </ul>
		6月30日（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義：「主幹・主査・係長・主任の補佐としての役割」 講師：看護部長 佐藤 さゆり</li> <li>・講義：「職場で活かす業務管理ポイント」 講師：看護副部長 鈴木 郁</li> </ul>
		10月29日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義：「クレーム対応について」 講師：看護副部長 佐藤 千鶴子</li> </ul>
		平成27年 1月23日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年の成果発表 （パワーポイントでプレゼンテーション） 「各自の成果と課題」</li> <li>・発表 『研修を通して学んだこと』</li> </ul>
全 体 研 修	看護研究	11月22日（金）	部署の看護研究発表 1回目
		11月28日（木）	部署の看護研究発表 2回目
	看護学会報告	12月 5日（金）	院外投稿看護学会発表 研究発表会
専 門 研 修	専門分野研修	5月 7日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中ケア研修会 第1回目 「フィジカルアセスメント①呼吸」 講師：集中ケア認定看護師 三浦 良哉</li> </ul>
		5月 8日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚・排泄ケア研修会ベーシック 第1回 「スキンケア」</li> </ul>

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
専 門  研 修			講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護主任 梅本 貴子
		5月13日(火)	・緩和ケア研修会 第1回 「緩和ケア概論」 講師：緩和ケア認定看護師 上林 沙希子
		5月19日(月)	・がん化学療法看護研修会 第1回目 「抗がん剤の安全な取り扱い方法と投与管理」 講師：がん化学療法看護認定看護師 佐々木 孔美
		5月28日(水)	・感染管理ベーシックコース研修会 第1回 「感染経路別予防策」 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子
		6月3日(火)	・集中ケア研修会 第2回目 「フィジカルアセスメント②循環」 講師：集中ケア認定看護師 三浦 良哉
		6月6日(金)	・皮膚・排泄ケア研修会ベーシック 第2回 「創傷ケア」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護主任 梅本 貴子
		6月13日(金)	・緩和ケア研修会 第2回 「疼痛Ⅰ」 講師：緩和ケア認定看護師 上林 沙希子
		6月25日(水)	・がん化学療法看護研修会 第2回目 「がんの痛みも怖くない」 講師：がん化学療法看護認定看護師 佐々木 孔美
		6月26日(木)	・感染管理ベーシックコース研修会 第2回 「標準予防策」 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子
		7月3日(木)	・集中ケア研修会 第3回目 「中枢神経系・腹部」 講師：集中ケア認定看護師 三浦 良哉
		7月24日(木)	・緩和ケア研修会 第3回 「がんの痛みも怖くない」 講師：緩和ケア認定看護師 上林 沙希子
		7月29日(火)	・感染管理ベーシックコース研修会 第3回 「血流感染&尿路感染防止のための看護ケア」 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子
		9月4日(木)	・皮膚・排泄ケア研修会ベーシック 第3回 「ストーマケア」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護主任 梅本 貴子
		9月5日(金)	・感染管理ステップアップコース研修会 第1回 「感染症事例から考えるⅠ」 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子
		9月11日(木)	・皮膚・排泄ケア研修会ステップアップ 第1回 「創傷管理概論」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護主任 梅本 貴子
		9月12日(金)	・緩和ケア研修会 第4回 「精神症状の治療とケア」 講師：緩和ケア認定看護師 上林 沙希子 阿部 美知子
		9月24日(水)	・感染管理ベーシックコース研修会 第4回 「肺炎&手術部位感染防止のための看護ケア」 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
専 門 研 修		10月2日（木）	・皮膚・排泄ケア研修会ベーシック 第4回 「失禁ケア」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護主任 梅本 貴子
		10月3日（金）	・皮膚・排泄ケア研修会ステップアップ 第2回 「創傷管理の実際」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護主任 梅本 貴子
		10月17日（金）	・感染管理ステップアップコース研修会 第2回 「感染症事例から考えるⅡ」 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子
		11月7日（金）	・皮膚・排泄ケア研修会ステップアップ 第3回 「排泄管理概論」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護主任 梅本 貴子
		11月26日（水）	・感染管理ステップアップコース研修会 第3回 「アウトブレイク事例から考える感染対策」 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子
		12月11日（木）	・皮膚・排泄ケア研修会ステップアップ 第4回 「排泄管理の実際」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護主任 梅本 貴子
		12月15日（月）	・感染管理ステップアップコース研修会 第4回 「職業感染対策」 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子
		平成27年 1月22日（木）	・皮膚・排泄ケア研修会ステップアップ 第5回 「コンチネンスケア」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護主任 梅本 貴子
補 助 者 研 修	看護補助者研修	5月9日（金）	・年間計画の周知、病院の理念、基本方針 講師：丸山 邦看護主幹 ・接遇・倫理面、守秘義務 講師：五十嵐利恵 看護主査 ・医療安全 講師：医療安全管理室 富樫恭子 看護主幹 ・感染対策 講師：感染管理認定看護師 看護係長 若松 由紀子
		7月11日（金）	・褥瘡対策について 円背・拘縮・麻痺と体位変換・除圧 講師：褥瘡対策リンク看護師 ・食事介助について 講師：NSTリンク看護師
		10月10日（金）	・接遇について 人間関係を円滑にするメンバーシップ・チームワーク 講師：看護部倫理委員会
		12月12日（金）	・感染対策について 疥癬とノロウイルスと感染対策 講師：感染対策リンク看護師 ・医療安全について インシデント事例から 講師：医療安全管理室 富樫恭子 看護主査

## 3年目ナース研修 看護研究発表

研究テーマ	氏名	
終末期にある患者との関わり－心理過程を振り返る－	8階東入院棟	星野 悠太
積極的治療を終了する終末期がん患者の心理過程	8階東入院棟	砂田 優花
口腔ケアを通した終末期癌患者との関わり	8階西入院棟	櫻井あき子
肺切除術患者の不安軽減に向けた援助 －術後経過のシミュレーションを通して－	7階東入院棟	門脇 沙姫
心不全患者の内服自己管理継続のための関わり	7階西入院棟	高橋 逸美
神経障害による片麻痺のある患者の自己表出に向けた看護介入	6階東入院棟	上野 恵
脳出血により嚥下障害となった患者の嚥下リハビリテーションの効果的な援助	6階東入院棟	小野寺里奈
化学療法を受けている患者が求める看護師の役割 －血液疾患患者との関わりから－	6階西入院棟	難波 和希
腹膜透析導入における自己管理への援助 －退院に向けての患者への指導を実践して－	6階西入院棟	荒木 李菜
荷重制限のある高齢者への看護援助 －ADL拡大に向けたパンフレットを用いて－	5階東入院棟	菅原由佳
疼痛により体動困難な患者の効果的な看護介入 －離床促進に向けての援助方法－	5階東入院棟	白幡 敦子
認知症高齢者のその人らしさに配慮した安全な療養環境について考える －アソビリティの実践を通して－	5階西入院棟	阿部 希
周辺症状のある認知症患者との関わりを分析して －コマニチュードを用いた看護援助－	5階西入院棟	井上京子
腹腔鏡下虫垂切除術を受けた学童期の患児への早期離床を試みて	4階東入院棟	本間理紗子
がん化学療法を受ける患者の全人的苦痛に対する効果的な関わり －「生活のしやすさに関する質問表」を用いて－	4階西入院棟	難波めぐみ
術前訪問におけるオリエンテーションDVDの効果 －患者の不安軽減を図るために－	手術センター	五十嵐寛人

## リーダーナース研修Ⅰ 看護研究発表

研究テーマ	氏名	
入院患児にあそびを取り入れての看護師意識調査	4階東入院棟	岡部和歌子
手指衛生に対する認識と遵守率向上への取り組み —確実な手指衛生技術の習得に向けて—	6階東入院棟	小南亜矢子
退院支援、早期介入における看護師の意識向上に向けた取り組み —チームカンファレンスでの情報共有の徹底化—	7階西入院棟	梅木 結
ビデオを用いた速乾性擦式消毒剤の使用実態調査と課題 ～「WHO手指衛生の5つのタイミング」と比較して～	集中治療センター	佐藤 靖子
口頭指示の受け方に関する実態調査 —実態調査から自部署の課題を抽出する—	集中治療センター	佐藤 良枝
挿管患者の鎮痛に対する看護師の意識調査 —鎮痛スケールBPSを導入して—	集中治療センター	佐藤 慎吾
療法選択教室における情報提供の充実を目指して	血液浄化療法センター	小南志保
継続的危険予知トレーニング活動の導入 —手術室看護師の危険予知に対する意識向上を目指して—	手術センター	阿部 和佳
救急センター看護師が抱く産科救急に対する不安の調査 —産科救急対応ショミレーションを施行して—	救急センター	佐藤 靖子
救急センター看護師の外傷患者対応の現状 —観察に対する学習会前後での経過記録の比較—	救急センター	山口慎太郎

## リーダーナース研修Ⅱ 看護研究発表

研究テーマ	氏名	
小児の接触感染防止対策の視点からの家族指導 —オムツ交換のベストプラクティスを作成して—	4階東入院棟	伊藤 佳子
退院時の物品の不備をなくす取り組み —小児退院時チェックリストの作成—	4階東入院棟	山本 麻衣
スタッフが自主的に退院調整に取り組む事のできるフロー作成	5階東入院棟	秋野 晶
栄養アセスメントのスキルアップを目指して	集中治療センター	伊藤 和香
重症度・医療看護必要度を正確に判定入力するための取り組み	集中治療センター	小林 千穂
効率よく未熟児の手術を勧めるために —未熟児の手術準備マニュアルを作成して—	手術センター	本間美由紀
当院PD外来の抱える地域連携の現状と今後の課題・対策	血液浄化療法センター	難波 隆

# V 各診療科別および各部門別の臨床統計

## 1. 循 環 器 科

2014年1月1日から12月31日までの検査、治療成績を報告する。

表1 カテーテル検査・治療

	2014年	2013年	2012年	2011年
診断カテーテル検査	158	183	165	148
冠動脈形成術 PCI	74(44)	108(58)	152(58)	109(48)
血管内超音波検査	72	97	116	54
末梢血管形成術 PTA	6	11	11	4
ペースメーカー植え込み、交換	65	73	48	58
カテーテル焼灼術	1	1	3	1
下大静脈フィルター	8	8	10	9
IABP	3	8	10	7
PCPS	0	0	1	0
合 計	387	489	516	390

( ) 緊急PCI

表2. 非侵襲的検査

	2014年	2013年	2012年	2011年
心エコー検査	2207	2623	2362	1463
ホルター心電図	276	234	304	304
トレッドミル運動負荷試験	98	104	77	66
PWV	142	240	47	0
心筋シンチグラフィー	16	26	25	49
冠動脈CT	125	166	198	192
心臓MRI	1	5	3	1

表3. 入 院 治 療

	2014年	2013年	2012年	2011年
退院患者数	1058	1108	1028	1003

## 2. 神 経 内 科

神経内科 外来患者数 2014年1月～12月 集計

月	新患者数(人)	再来患者数(人)	計
1月	22	448	470
2月	19	362	381
3月	20	495	515
4月	27	461	488
5月	14	436	450
6月	22	485	507
7月	18	488	506
8月	17	389	406
9月	20	505	525
10月	24	466	490
11月	11	361	372
12月	16	455	471
計	230	5,351	5,581

## 3. 呼 吸 器 科

	2014年外来患者数		入院患者数	気管支鏡検査数
	新 患	再 来		
1月	12	553	41	11
2月	20	521	46	15
3月	28	578	35	17
4月	19	626	44	25
5月	26	535	42	14
6月	25	561	48	17
7月	19	561	32	18
8月	26	561	38	13
9月	26	517	40	13
10月	32	626	38	17
11月	16	515	33	20
12月	35	508	52	4
計	284	6,662	489	184

## 4. 外科手術症例（小児外科を除く）

(2014年1月1日～2014年12月31日)

(1) 手術総数：505例

予定手術：441 (87.3%)

緊急手術： 64 (13.7%)

(2) 麻酔法別手術

全身麻酔：415 (82.2%)

腰椎麻酔： 37 ( 7.3%)

局所麻酔： 53 (10.5%)

(3) 外科手術505例の内訳

疾 患 名		手 術 式
頸部疾患（甲状腺・副甲状腺）	7	
甲状腺癌	5	甲状腺亜全摘術 1
甲状腺腫・良性腫瘍	2	甲状腺半切除 4
		腫瘍・腫瘍摘出術 2
乳腺	62	
乳癌	44	単純乳腺全切除 3
乳腺腫・良性腫瘍	18	胸筋温存乳房切除 17( 9)
		乳房温存手術 19(17)
		腫瘍・腫瘍摘出術 19
		腋窩郭清/センチネル生検のみ 4
		(センチネルリンパ節生検数)
食道・縦隔疾患	3	
食道癌	2	食道切除術（胸骨後挙上） 1
横隔膜ヘルニア	1	下部食道切除+胃全摘 1
		横隔膜修復術（経腹） 1
胃・十二指腸	62	
悪性	57	胃全摘出術 13
胃癌（原発）	52	開腹手術 12
		腹腔鏡下胃全摘 1

胃GIST	3	幽門側胃切除術	44
残胃癌	1	開腹術	26
		腹腔鏡下幽門側胃切除	18
		腹腔鏡下胃部分切除	1
十二指腸癌	1	脾頭十二指腸切除術(PpPD)	1
良性疾患	5	胃瘻・腸瘻造設術	1
十二指腸潰瘍（穿孔・出血性）	3		
幽門狭窄	1	大網充填術	2
経口摂取困難	1		
小腸疾患（外傷除く）	7		
小腸穿孔	3	小腸部分切除術	6
上腸間膜動脈血栓症/虚血性腸炎	2	異物摘出術	1
小腸異物	1		
小腸出血	1		
結腸・直腸・肛門疾患	109		
結腸	7	S状結腸切除/前方切除術	15
	6		
癌・悪性腫瘍	60	低位前方切除術	1
憩室・穿孔.良性腫瘍	15	Hartmann	3
潰瘍性大腸炎	1		
		全結腸切除+Jパウチ	1
直腸	30	右半結腸切除術	10
癌	24	横行結腸切除術	5
穿孔	5	左半結腸切除術	3
狭窄	1	回盲部切除術	2
		腹腔鏡補助下結腸切除術	21
		腹腔鏡補助下直腸切除術	19
		バイパス術	4
		人工肛門造設術	22

肛門	3		
肛門周囲膿瘍・痔瘻	1	結紮・切除術	1
肛門良性腫瘍	1	経肛門的ポリープ切除術	1
内痔核	1	瘻孔切除	1
肝臓疾患	2		
肝細胞癌	1	右葉切除	1
転移性肝腫瘍	1	肝部分切除術	1
胆嚢・胆管・膵臓疾患	92		
膵癌	5	膵頭十二指腸切除術	1
膵囊胞性疾患/腫瘍	4	胆管切除+胆道再建	1
胆囊癌	2		
胆管癌	1	膵体尾部切除術	6
		腹腔鏡下胆囊摘出術	59
胆石症・胆囊炎	63	開腹胆囊摘出術	12
胆囊ポリープ・腺筋症	6	胆管切開結石摘出術	3
		総胆管-十二指腸吻合	6
総胆管結石	9	肝床切除術+リンパ節郭清	2
胆道狭窄	2	バイパス術/ブジー術	2
腸閉塞疾患(癌・ヘルニア嵌頓は除く)11			
癒着性腸閉塞	4	癒着剥離/絞扼解除	3
絞扼性腸閉塞	7	腸切除術	8
虫垂疾患	28		
急性虫垂炎	12	開腹虫垂切除+ドレナージ術	3
反復性/慢性虫垂炎	16	開腹虫垂切除	1
		腹腔鏡下虫垂切除術	24

腹部外傷	4		
交通外傷	1	消化管切除・縫合	2
腹部刺傷	3	試験開腹術	2
ヘルニア	69		
鼠径ヘルニア	64	メッシュ法等人工素材	59
大腿ヘルニア	2	上記以外	10
閉鎖孔ヘルニア	2		
臍ヘルニア（嵌頓）	1		
泌尿・生殖器疾患	3		
尿膜管遺残	3	尿膜管摘出術（腹腔鏡補助）	3
体表	10		
リンパ節腫脹	7	リンパ節生検	7
体表腫瘍	3	腫瘍摘出術	3
CV ポート	18	CVポート造設術	17
		CVポート抜去術	1
その他	18		
人工肛門脱出/嵌頓	2	人工肛門造設術	1
CAPD腹膜炎	2	人工肛門再造設術	2
後腹膜/骨盤内腫瘍	3	腫瘍摘出術	3
褥瘡	1	CAPDチューブ抜去術	2
上記分類不能	10		10

## 過去 8 年間の主な癌症例数の推移

	2010	2011	2012	2013	2014
胃癌	67	85	66	68	52
結腸・直腸癌	82	83	82	101	84
乳癌	32	38	37	33	44

## 5. 小児外科手術症例

(2014年1月1日～12月31日)

(1) 手術総数：58例

予定手術：48 (82.8%)

緊急手術：10 (17.2%)

腹腔鏡手術数：23 (39.7%)

(2) 小児外科手術例の内訳

病名		術式
鼠径ヘルニア	23	
男	11 Potts' 法	11
女	12 LPEC法	12
虫垂炎	11 腹腔鏡下虫垂切除術（待期的）	11(5)
臍ヘルニア	1 臍ヘルニア手術	1
白線ヘルニア	1 白線ヘルニア手術	1
腹壁瘢痕ヘルニア	1 瘢痕ヘルニア閉鎖術	1
臍肉芽腫	1 臍肉芽腫切除術	1
停留精巢	5 停留精巢固定術	5
中間位鎖肛	1 根治術 人工肛門閉鎖術	1 1
Peutz-Jegheres症候群	1 小腸部分切除術	1
腸重積症	1 Hutchinson手術	1
肥厚性幽門狭窄症	2 Ramstedt手術	2
術後吻合部狭窄	1 小腸部分切除	1
肛門ポリープ	1 経肛門的ポリープ切除	1

穿孔性十二指腸潰瘍（術後）	1	上部消化管内視鏡検査	1
経口摂取困難	3	胃瘻造設術	2
		腸瘻造設術	1
直腸-尿道瘻孔	1	透視下瘻孔造影検査	1
新生児手術	2		
中間位鎖肛	1	人工肛門造設術	1
先天性小腸閉鎖症	1	小腸部分切除術	1

## 6. 心臓血管外科手術症例

(2014年1月1日-12月31日)

heart disease	2		2
PDA	1	ligation	1
PM	1	generator exchange	1
vascular disease	7		7
thromboembolism	2	thrombectomy	2
CRF on HD	4	thrombectomy aneurysmectomy	3 1
others	1	other s	1

## 7. 呼吸器外科

(2014年1月1日～12月31日)

手術総数：102例

全 麻：101例

完全胸腔鏡下手術：84例 (82.4%)

<肺悪性> 例数  
(括弧内は完全胸腔鏡下手術)

●原発性肺癌 52 (44)

- ・肺全摘術 2 (2)
- ・肺葉切除術 21 (15)
- ・肺区域切除術 21 (20)
- ・肺部分切除術 7 (7)
- ・その他 1 (0)

●転移性肺腫瘍 4 (4)

(肺滑膜肉腫1、乳癌1、前立腺癌1、直腸癌1)

- ・肺葉切除術 1 (1)
- ・肺部分切除術 4 (4)

<肺良性>

●良性肺腫瘍 4 (4)

(過誤腫 1、硬化性血管腫 1、線維化2)

- ・区域切除術 4 (4)

●炎症性 4 (4)

(肉芽腫 1、非定型抗酸菌症 1、真菌症 1、

慢性炎症)

- ・肺葉切除術 2 (2)
- ・区域切除術 1 (1)
- ・肺部分切除術 1 (1)

●囊胞性肺疾患 20 (20)

(自然気胸18、巨大プラ2)

- ・プラ切除術 19 (19)
- ・プラ結紮術 1 (1)

<縦隔>

●縦隔腫瘍 5 (3)

(胸腺腫 2、囊腫 1、奇形種 1、神経鞘腫 1)

- ・胸腺切除術 3 (1)
- ・腫瘍切除術 2 (2)

<胸壁・胸膜>

●漏斗胸 1 (1)

- ・NUSS法 1 (1)  
形成外科手術

●胸壁腫瘍 (肺癌術後胸壁再発) 1 (0)

- ・胸壁切除皮弁形成再建 1 (0)

<気管>

●気管狭窄症 (食道癌疑い) 1 (0)

- ・DUMON-Y stent挿入 1 (0)

<その他>

●呼吸不全 3 (0)

- ・外科的気管切開 2 (0)

- ・経皮的気管切開 1 (0)

●外傷 (横隔膜損傷 1) 1 (1)

- ・横隔膜縫合術 1 (1)

●気管支異物 1 (0)

- ・異物除去術 1 (0)

●胸水 (肝性胸水) 1 (1)

- ・胸腔腹腔シャントチューブ挿入 1 (1)

●術後合併症 (術後肺瘻 2、肺梗塞 1) 3 (2)

- ・肺全摘 1 (0)

- ・肺瘻閉鎖 2 (2)

●頸部リンパ節腫大 (サルコイドーシス) 1 (0)

- ・頸部リンパ節生検 1 (0)

◎総評

・手術総数は前年に引き続き100件を越え、肺癌手術件数は前年38件から52件に増加した。

・総手術に占める完全胸腔鏡手術は約82.4%と増加した。

・肺癌手術に占める完全胸腔鏡手術は $44/52=84.6\%$ であった。

・肺癌に対する完全胸腔鏡下区域切除術は前年16例から21例に増加。そのうち20例が完全胸腔鏡下に行われた。今後、左右のあらゆる肺区域に適応できるように手技の向上をはかる必要がある。

## 8. 整 形 外 科

(2014年1月1日～12月31日)

### 臨床統計

2014年 整形外科手術件数 1332件

大腿骨近位部骨折手術 242件

橈骨遠位端骨折 53件

脊椎手術 147件

人工関節手術 54件

関節鏡手術 71件

など

## 9. 産婦人科

<b>産婦人科手術</b>	総数	271	<b>産科手術</b>	総数	112
(平成26年1月～12月)			帝王切開	75	
<b>子宮手術</b>		98	緊急帝王切開	30	
子宮摘出	61		選択的帝王切開	45	
子宮悪性腫瘍	9		頸管縫縮術	8	
子宮筋腫	34 (うち腹腔鏡下9)		流産手術	23	
子宮内膜症	4 (うち腹腔鏡下1)		人工中絶術	2	
子宮頸部異形成上皮	2		子宮外妊娠手術	4	
子宮脱	6		<b>その他</b>	6	
その他	6 (うち腹腔鏡下3)				
子宮筋腫核出	11 (うち腹腔鏡下8)		<b>分娩件数</b>	217	
子宮頸部円錐切除	22				
その他	4				
<b>付属器(卵巢・卵管)手術</b>		55			
悪性腫瘍	7				
良性腫瘍	29(うち腹腔鏡下13)				
子宮内膜症	18(うち腹腔鏡下10)				
卵巢出血	1				
その他	0				

**産婦人科月別外来患者数**

(平成26年1月～12月)

月	新患者数(人)	再来患者数(人)	計
1月	46	857	903
2月	35	708	743
3月	40	945	985
4月	40	623	663
5月	42	658	700
6月	32	629	661
7月	43	643	686
8月	47	587	634
9月	39	715	754
10月	55	677	732
11月	32	668	700
12月	56	661	717
計	507	8,371	8,878

**産婦人科月別入院患者数**

(平成26年1月～12月)

月	入院患者数(人)	退院患者数(人)	延べ入院患者数(人)
1月	49	37	632
2月	52	61	702
3月	49	48	677
4月	37	41	472
5月	38	39	459
6月	48	46	583
7月	37	43	570
8月	51	47	547
9月	50	50	441
10月	46	43	501
11月	36	43	520
12月	53	56	601
計	546	554	6,705

## 10. 小児科 (NICU)

平成26年的小児科NICU入院数は161例で、前年に比し58例増加した。平成25年12月にNICU 6床・GCU 6床に増床した影響があったかと思われる。

出生体重別入院数は、500g未満が0例、500～999gが4例、1000～1499gが6例、1500～1999gが13例、2000～2499gが43例、2500g以上が95例であった。超および極低出生体重児入院数は例年並みであったが、2500g以上の入院数が57例から95例と大幅に増加した。死亡退院は気管無形成に食道閉鎖、気管食道瘻を合併した低出生体重児の1例のみだった。本例は、新生児仮死による低酸素血症が続いたため姑息手術にも至なかったが、保存療法を継続して日齢260に死亡した。

出生場所については院内出生が134/161(83.2%)、院外出生が27/161(16.8%)で、例年通り圧倒的に院内出生が多かった。院内出生のうち31/134(23.1%)が母体搬送症例であり、前年に比し若干増加して例年並みに回復した。北庄内からの母体搬送

は5例で前年に比し2例増加、また新生児搬送も3例あった。ハイリスク妊娠が多いため40例に帝王切開が実施されたが、入院児に対する帝王切開率は40/134(29.9%)で、例年に比し低率だった。また人工呼吸管理症例は13/161(8.1%)で、これも例年に比し低率だった。新生児外科症例は、先天性小腸閉鎖症、症候性動脈管開存症、中間位鎖肛の3例であり、全例当院で手術を行った。本年度の新生児搬送（三角搬送）は6例と多く、救急車搬送が2例、ヘリコプター搬送が4例であった。救急車搬送はいずれも新潟大学に搬送した複雑型心奇形の症例で、大動脈縮窄+単心室+両大血管右室起始症とファロー四徴症+肺動脈閉鎖の2例だった。ヘリコプター搬送は、新潟大学に小脳出血、東北大学に先天性食道閉鎖症、日本大学板橋病院に13トリソミー、新潟大学を経由し静岡こども病院まで搬送した単心房単心室+共通房室弁口+肺動脈狭窄症の4例だった。

出生体重	入院数	死亡退院数
～ 499g	0	0
500 ～ 999g	4	0
1000 ～ 1499g	6	0
1500 ～ 1999g	13	0
2000 ～ 2499g	43	1
2500g ～	95	0
計	161	1

## 11. 小児科

### 小児科 2014年入院病棟

2014年1月から12月までの小児科病棟（4東病棟）における入院患者の総数は818名（男児421名、女児397名）であった。月別の入院患者数を図1に示す。春、冬に入院患者数の増加が見られるのが例年のパターンである。今年度は12月にRSウイルス感染の流行により患者数の増加が見られたが、春については感染性胃腸炎やインフルエンザなどのウイルス性疾患の流行がなく、また、例年春先に入院数が増える気管支喘息患者数が少なかつたことから、他の月に比べて明らかな患者数の増加が見られなかった。

疾患群ごとの患者数を表1に示す。前述したとおり、例年に比べると気管支喘息による入院数に減少がみられた。この調査では気管支喘息の診断カテゴリーに含まれるのは主に年長児である。小児の気管支喘息発作は主に呼吸器系ウイルス感染に誘発されることが多いが、昨年度の流行は乳幼児で流行しやすいRSウイルスがメインであり、インフルエンザや他の呼吸器感染症の流行が少なかったことが患者数の減少に繋がった可能性がある。また、喘息の長期管理方法が年々発展しており、特に年長児の発作頻度は近年減っていると感じる。この事も喘息入院患者数の減少の要因の1

つである可能性がある。他、例年に比べてその他カテゴリーに分類される児が増えているが、これは原因不明の嘔吐症で頻回入院した児がいる他、起立性調節障害の入院が増加したためである。起立性調節障害（OD）については本来循環器疾患に分類すべき疾患ではあるが、入院になるOD児は背景に心身症としての要因をもつ児が多く、循環器疾患と心身症の2つの疾患カテゴリーにまたがる概念であるためこの調査においてはその他に分類している。外来診療では症状の悪化に心因が関与していると思われるOD児は増加している印象がある。当科では専門的な心身症診療は難しいが、そのニーズは常にあり毎年心身症児が入院している状況にある。医師のスキルアップを図ると共に、専門医療が必要な心身症児や小児精神病を見逃さずに適切に専門機関へ相談してゆくよう努めてゆく必要がある。

また、本年度も入院時間の推移についても調査を行った（図2）。例年同様に、13時、20時にピークをもつ2峰性の患者数推移が見られたが、本年度は9時から11時までの入院決定患者数はこれまでよりも増加が見られた。入院を要する患者が比較的早い時間に受診するようになったこと、医師側も以前よりも無理な外来通院を避け、入院が必

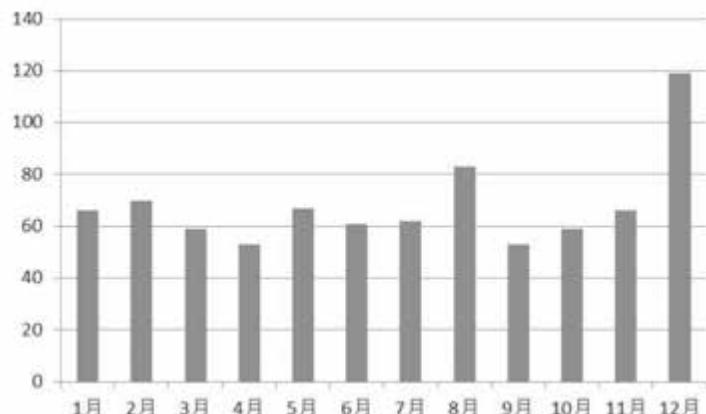


図1. 2014年度における月別の入院患者数

要な場合には早めにその判断をするようにするようになったことが要因と考えられる。結果として13時～14時の入院の減少率が高くなり、病棟スタッフの休憩時間でもある同時間帯に入院が殺到する事態は緩和されていると考えられる。

少子超高齢化時代を目前に控え、当院小児科の

今後の在り方について検討すべき時期にある。当院小児科の主要な任務である重症小児の診療に加え、今後は一般疾患に対してのより専門的な診療を行えるよう、病棟再編を含めて様々な計画、順次施行を行っている。鶴岡の子どもの健やかな成長を支えるべく今後も邁進してゆきたい。

表1. 疾患群ごとの入院患者数の内訳

疾 患 群	2011	2012	2013	2014
呼吸器感染症	388	496	397	319
消化器疾患	94	215	110	101
気管支喘息	175	196	126	66
神経疾患	113	122	147	139
その他の感染症	46	50	46	51
腎・泌尿器疾患	22	27	27	40
川崎病	22	12	23	14
内分泌・代謝疾患	11	12	13	8
アレルギー・免疫疾患	10	10	18	19
血液・腫瘍性疾患	6	9	6	6
事故	11	8	7	8
循環器疾患	4	4	2	5
心身症	7	0	2	3
その他	10	13	13	39
合 計	919	1,174	937	818

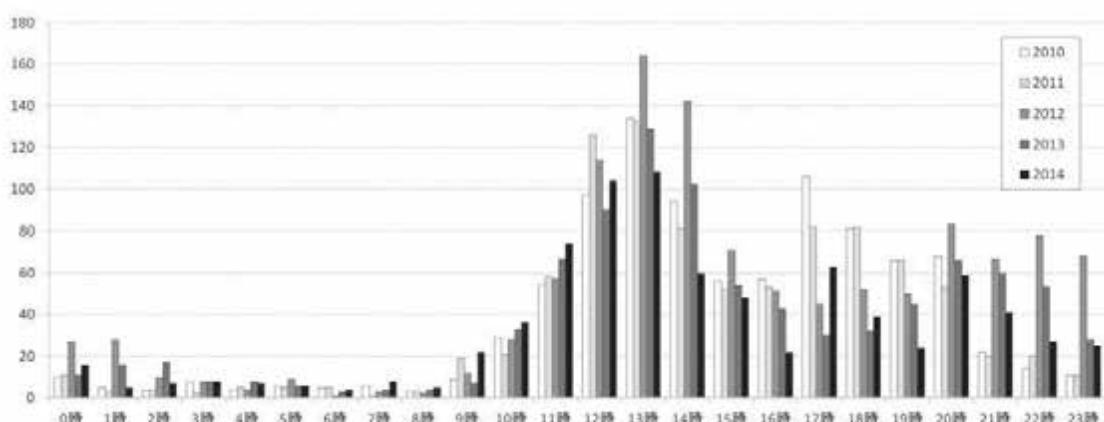


図2. 時間ごとの入院患者数

## 12. 耳 鼻 咽 喉 科

2014年耳鼻咽喉科入院内訳

(耳)	
浸出性中耳炎	6
突発性難聴	8
顔面神経麻痺	2
眩暈症	16
外耳道異物	1
(鼻)	
鼻出血	7
出血性鼻茸	1
慢性副鼻腔炎	1
(咽喉頭)	
喉頭外傷	1
咽頭異物	1
下咽頭癌	1
急性咽喉頭炎（急性扁桃炎を含む）	5
習慣性扁桃炎	4
IgA腎症（扁摘）	1
扁桃周囲炎+膿瘍	4
睡眠時無呼吸症候群	4
計	63

2014年手術内訳

鼓室内チューブ留置術	12
外耳道異物摘出術	2
咽頭異物摘出術	3
鼻茸切除術	2
鼻内副鼻腔手術	2
口蓋扁桃摘出術	16
アデノイド切除術	3
頸部リンパ節生検術	3
計	43

## 13. 皮膚科

2014年 外来患者数

	新 患	再 来	合 計
1 月	23	219	242
2 月	20	148	168
3 月	33	153	186
4 月	26	208	234
5 月	31	171	202
6 月	59	242	301
7 月	74	233	307
8 月	68	187	255
9 月	44	177	221
10 月	37	195	232
11 月	19	149	168
12 月	28	171	199
計	462	2,253	2,715

## 14. 泌 尿 器 科

平成26年 泌尿器科手術件数

手 術 名	件 数
根治的腎摘除術	3
腎尿管全摘膀胱部分切除術	3
経尿道的尿管結石碎石術	6
体外衝撃波結石破碎術	8 5
膀胱全摘術	1
経尿道的膀胱癌手術	4 5
経尿道的膀胱結石碎石術	1 0
前立腺全摘術	1
経尿道的前立腺切除術	0
前立腺生検	7 6
精巣悪性腫瘍手術	1
陰のう水腫根治術	1
その他	1 0
計	2 4 2

## 15. 放 射 線 科

### [臨床統計]

#### ・原疾患別放射線治療新患者数 (平成26年1月～12月)

1. 脳・脊髄腫瘍	1例	8. 婦人科腫瘍	4例
2. 頭頸部腫瘍 (甲状腺腫瘍を含む)	11例	9. 泌尿器系腫瘍 (うち前立腺癌)	40例 34(例)
3. 食道癌	13例	10. 血造リンパ系腫瘍	3例
4. 肺癌・気管・縱隔腫瘍 (うち肺癌)	38例 35(例)	11. 皮膚・骨・軟部腫瘍	1例
5. 乳癌	41例	12. その他(悪性腫瘍)	3例
6. 肝・胆・脾癌	5例	13. 良性疾患	3例
7. 胃・小・結・直腸癌	15	14. (15歳以下の小児)	0例

#### ・過去3ヵ年の撮影患者数の動向

(単位：人)

	H24年1～12月	H25年1～12月	H26年1～12月
勤務時間内	63,652	63,388	64,851
勤務時間外	16,689	16,036	15,706
合 計	80,341	79,424	80,557
前 年 比		98.86%	101.42%
対前々年比			100.26%

#### ・カテーテル法的治療患者数 (H.26年1月～12月)

放射線科 血管撮影 33人

TACE (肝動脈化学塞栓術) 25人

その他IVR (血管内治療) 8人

脳神経外科 血管撮影 74人

動脈瘤コイル塞栓術 7人

CAS (頸動脈ステント留置術) 0人

その他IVR (血管内治療) 5人

### [業務統計]

#### ・撮影種別(時間外)患者数 (H25年及びH26年)

(単位：人)

撮 影 項 目	H25年 1月～12月			H26年 1月～12月		
	勤務時間内	勤務時間外	合 計	勤務時間内	勤務時間外	合 計
一般撮影	29,200	7,989	37,189	29,367	7,181	36,548
ポートブル撮影	5,521	2,239	7,760	5,445	2,804	8,249
乳房撮影	1,656	2	1,658	1,526	0	1,526
パンтом撮影	700	24	724	729	5	734
骨塩定量	1,391	0	1,391	1,369	0	1,369
結石破碎	71	1	72	81	0	81
X線TV	1,898	258	2,156	1,966	218	2,184
一般アンギオ	145	21	166	91	19	110
循環器アンギオ	389	62	451	313	55	368
CT	12,800	4,348	17,148	13,413	4,310	17,723
MR I	5,671	1,092	6,763	5,914	1,114	7,028
R I	329	0	329	348	0	348
放射線治療	3,617	0	3,617	4,289	0	4,289
合 計	63,388	16,036	79,424	64,851	15,706	80,557

## 16. 麻 醉 科

2014	外科	全身麻酔(吸入)	91
		全身麻酔(TIVA)	105
		全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	81
		全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	138
		脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	1
		小 計	416
	形成外科	全身麻酔(吸入)	76
		全身麻酔(TIVA)	45
		全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	1
		全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	1
		脊髄くも膜下麻酔	1
		小 計	124
	産科・婦人科	全身麻酔(吸入)	10
		全身麻酔(TIVA)	36
		全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	6
		全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	78
		脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	4
		脊髄くも膜下麻酔	1
		小 計	135
	歯科口腔外科	全身麻酔(吸入)	25
		全身麻酔(TIVA)	30
		小計	55
	耳鼻咽喉科	全身麻酔(吸入)	13
		全身麻酔(TIVA)	6
		小 計	19
	小児外科	全身麻酔(吸入)	41
		全身麻酔(TIVA)	3
		全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	11
		全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	3
		小 計	58
	心臓血管外科・呼吸器外科	全身麻酔(吸入)	5
		全身麻酔(TIVA)	10
		全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	34
		全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	52
		小 計	101

	整形外科	全身麻酔(吸入)	150
		全身麻酔(TIVA)	120
		全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	42
		全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	65
		脊髓くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	2
		伝達麻酔	1
		小 計	380
	脳神経外科	全身麻酔(吸入)	22
		全身麻酔(TIVA)	58
		全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	1
		小 計	81
	泌尿器科	全身麻酔(吸入)	3
		全身麻酔(TIVA)	1
		全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	6
		全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	1
		小 計	11
	小 計		1,380

## 17. 病理科

### 臨床統計

病理検査は院内検査がやや減少したものの、医師会検査の増により、総計では1%の増となった。検体種類別に見てみると、組織診は減少したものの細胞診がやや増加した。病理解剖は2件と大きく減少した。外部委託、免疫染色が増加した。外部委託は遺伝子関連の検査がほとんどであり、精

度の高い診断が望まれている。診療科毎の件数を見てみると、組織診では呼吸器科、呼吸器外科、婦人科が増加し、外科、泌尿器科、歯科口腔外科が減少した。細胞診では呼吸器科、泌尿器科が増加し、婦人科、人間ドックが減少した。

**表1 2014年 病理検査件数**

検査種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年計	増減数	増減率
組織診一臓器	205	212	208	226	226	230	230	216	211	208	169	195	2536	2645	-109	-0.04
組織診二臓器	15	22	25	21	21	27	25	20	26	23	20	23	268	261	7	0.03
組織診三臓器	8	5	5	3	2	4	4	1	12	4	6	2	56	57	-1	-0.02
術中迅速組織診	7	3	9	12	8	12	9	7	4	10	7	12	100	107	-7	-0.07
細胞診検査	297	284	341	327	359	366	296	295	358	372	339	326	3960	3876	84	0.02
術中迅速細胞診	4	1	2	3	0	2	2	1	1	3	1	3	23	30	-7	-0.23
検診細胞検査	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	2	6	1	5	5.00
ドック細胞検査	76	71	49	70	76	79	97	79	77	95	84	73	926	1040	-114	-0.11
外部委託検査	13	10	17	11	11	17	11	12	18	18	13	15	166	110	56	0.51
病理検査小計	625	609	657	673	704	737	674	631	707	733	640	651	8041	8127	-86	-0.01
病理解剖	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	10	-8	-0.80
免疫染色	13	12	12	30	38	48	39	41	36	42	36	45	392	333	59	0.18
医師会組織診	252	261	256	278	281	339	338	267	338	325	284	320	3539	3437	102	0.03
医師会細胞診	73	67	58	62	65	74	107	66	104	115	69	82	942	856	86	0.10
病理検査総計	963	949	983	1044	1088	1198	1158	1006	1185	1215	1029	1098	12916	12763	153	0.01

**表2 2014年 診療科別統計 括弧内は2013年件数**

診療科	受付件数組織診	作成組織ブロック数	作成標本枚数組織診	受付件数細胞診	作成標本枚数細胞診	剖検数
内科	19 (26)	36 (37)	105 (394)	27 (22)	114 (108)	0 (4)
消化器科	989 (1001)	1359 (1317)	1795 (1890)	49 (57)	205 (252)	0 (0)
呼吸器科	57 (44)	85 (52)	302 (98)	414 (362)	2071 (1714)	0 (0)
外科	479 (508)	3837 (4273)	5504 (5995)	426 (410)	1827 (1720)	1 (0)
呼吸器外科	138 (120)	1230 (707)	1705 (1093)	11 (22)	54 (112)	0 (0)
小児外科	15 (27)	39 (105)	54 (139)	1 (3)	4 (20)	0 (0)
泌尿器科	192 (265)	989 (1464)	1342 (1901)	1430 (1323)	2992 (2763)	0 (0)
婦人科	381 (359)	2379 (2013)	2802 (2641)	1505 (1575)	2134 (2124)	1 (0)
形成外科	260 (242)	449 (502)	565 (685)	1 (1)	5 (2)	0 (0)
整形外科	79 (76)	109 (117)	224 (200)	91 (95)	254 (370)	0 (0)
耳鼻咽喉科	20 (19)	36 (27)	37 (38)	9 (13)	43 (58)	0 (0)
歯科口腔外科	115 (141)	187 (264)	355 (490)	0 (1)	0 (6)	0 (0)
皮膚科	39 (34)	47 (40)	151 (141)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
脳神経外科	15 (17)	42 (30)	97 (60)	2 (1)	4 (2)	0 (0)
神経内科	0 (1)	0 (1)	0 (1)	7 (6)	14 (12)	0 (0)
小児科	3 (0)	4 (0)	25 (0)	3 (2)	12 (6)	0 (0)
眼科	4 (3)	4 (3)	4 (16)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
人間ドック	154 (185)	159 (186)	181 (253)	925 (1039)	2384 (2712)	0 (0)
循環器科	4 (8)	4 (9)	4 (29)	13 (11)	63 (48)	0 (0)
その他	0 (1)	0 (2)	5 (12)	7 (1)	16 (7)	0 (0)
合計	2963 (3077)	10995 11149	15252 (16069)	4925 4948	12196 (12036)	2 (10)

## 18. 歯科口腔外科

2014.1.1～12.31臨床統計、口腔外科台帳からのデータ。例年とほぼ同様の傾向であった。

**表1 2014年新患**

年間新患数	788例	
(内訳) 院外紹介	605例	76.8%
院内紹介	127例	16.1%
救急センター	49例	6.2%
その他	7例	0.9%
歯科：医科	14.2 : 1	
口腔外科疾患	325例	41.0%
歯科疾患	468例	59.0%

**表2 新患788例の疾患内訳（重複あり）**

**表2 A 口腔外科疾患325例の内訳**

疾患分類	(例)	(%)
顎関節疾患	51	15.7
炎症	33	10.2
外傷	68	20.9
粘膜疾患	52	16.0
良性腫瘍	30	9.2
唾液腺疾患	17	5.2
悪性腫瘍	5	1.5
顎骨囊胞	15	4.6
顎変形症 (口蓋裂,SAS埋入依頼を含む)	13	4.0
その他の	40	12.3

**表2 B 歯科疾患468例の内訳**

疾患分類	(例)	(%)
抜歯	391	83.5
Wz摘出/WSR	12	2.6
歯科治療	41	8.8
周術期管理	13	2.8
その他の	11	2.4

**表3 入院の内訳**

疾患分類	(例)	(%)
顎変形症	10	7.3
骨内プレート	11	8.0
悪性腫瘍	11	8.0
良性腫瘍	31	22.6
炎症	9	6.6
外傷	6	4.4
抗凝固剤投与状態	18	13.1
歯の疾患	32	23.4
その他の	9	6.6

総数	137
前年からの越年入院	0
Sterben	2

表4 手術統計

日本口腔外科学会専門医制度の手術難易度区分表（2014.10改訂）の分類に基づいた統計で、研修施設を対象とした口腔外科疾患症例調査に準じて集計した。

表4A 外来小手術 総数392術式（複数分野施行は4術式）。

分野記号	レベルI 基 本	レベルII 中 難 度	レベルIII 高 難 度	レベルIV 超高難度	合 計	
A-1	152	8	0		160	40.8%
A-2	1	0			1	0.3%
A-3	0	0	0		0	0%
B-1	8	6	0	0	14	3.6%
B-2	23	0	0	0	23	5.9%
B-3	6	0	0	0	6	1.5%
B-4	1	0			1	0.3%
C-1	13	0	0	0	13	3.3%
C-2	4	0	0	0	4	1.0%
C-3	1	0	0	0	1	0.3%
D-1	11	0	0	0	11	2.8%
D-2	0	0	0	0	0	0%
D-3		0	0	0	0	0%
その他	その他、上記に含まれない埋伏抜歯・生検などの小手術 (ただし、普通抜歯は含まず)				158	40.3%

表4B 手術センター手術 89症例に対して、106術式（複数分野施行・17術式）施行した。  
全麻：69例、IV-S：19例、局麻：1例。

分野記号	レベルI 基 本	レベルII 中 難 度	レベルIII 高 難 度	レベルIV 超高難度	合 計	
A-1	4	23	0		27	25.5%
A-2	1	0			1	0.9%
A-3	0	0	0		0	0%
B-1	0	0	0	0	0	0%
B-2	23	6	1	0	30	28.3%
B-3	0	0	0	0	0	0%
B-4	0	0			0	0%
C-1	1	3	0	0	4	3.8%
C-2	11	1	18	0	30	28.3%
C-3	0	0	0	0	0	0%
D-1	1	7	1	0	9	8.5%
D-2	2	0	0	1	3	2.8%
D-3		0	0	0	0	0%
その他	その他、上記に含まれない手術				2	1.9%

&lt;分野記号：分野名&gt;

A-1：歯・歯槽外科手術、A-2：補綴前外科手術/頸堤形成手術/骨移植手術、A-3：口腔インプラント関連手術

B-1：消炎手術、B-2：良性腫瘍・囊胞・腫瘍形成疾患等の手術、B-3：唾液腺関連手術、B-4：上顎洞関連手術

C-1：顎顔面外傷手術/異物除去手術、C-2：顎変形症関連手術/顎顔面骨延長術、C-3：顎関節手術および関連処置

D-1：癌/前癌病変関連手術および処置（唾液腺悪性腫瘍は別掲）、D-2：再建外科手術、D-3：口唇裂・口蓋裂関連手術

## 19. 中央検査科

細菌検査は年々増加しており、昨年減少した他の検体検査も製剤準備、使用件数共に減少した輸血検査を除き2012年並に回復している。委託検査は、専用試薬の供給停止に伴う血清検査及び蛋白分画の委託化により大幅に増加している。

**表1 検体検査件数**

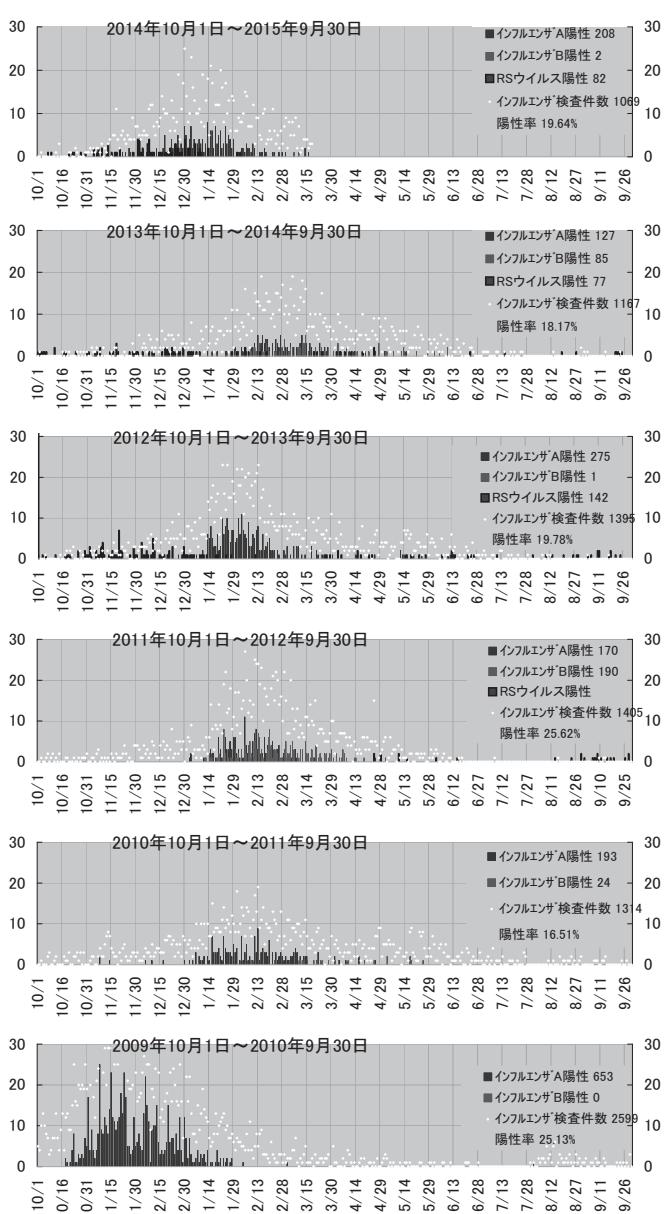
	2013	2014	増減率(%)
化 学	1,227,743	1,256,919	102.38
血 液	148,184	151,843	102.47
血 清	71,161	69,849	98.16
一 般	46,870	47,639	101.64
細 菌	20,873	22,787	109.17
(迅 速)	4,728	4,922	104.10
(一般菌)	16,145	17,865	110.65
輸 血	12,556	12,033	95.83
委 託	14,318	18,961	132.43
総 計	1,541,705	1,580,031	102.49

**表2 生理検査件数**

	2013	2014	増減率(%)	
生 理 検 査 室	心電図等	13,002	12,760	98.14
	(ボーダーフィル)	928	802	86.42
	(シネアンギオ)	441	362	82.09
	超音波/技師	2,922	2,711	92.78
	超音波/医師	1,932	1,897	98.19
	小 計	17,856	17,368	97.27
各 部 署	心電図等	6,692	6,963	104.05
	超音波	5,184	5,157	99.48
	小 計	11,876	12,120	102.05
総 計	29,732	29,488	99.18	

生理検査は、呼吸機能検査、医師施行の小児エコー検査件数が増加したものの全体として減少している。検査室以外での生理検査件数は、救急センターでの心電図検査が増加している。今後の推移を注視したい。

**インフルエンザ検出状況**



## 20. 薬局

薬剤師欠員状態の中、更なる業務の見直し等を行い病棟薬剤業務時間を確保、ハイリスク薬や退院時指導等の充実を図った。また、小児の注射

薬無菌調製は前年比ほぼ1.5倍に增加了。

後発薬品への切り替えを積極的に進め、置き換え率80%を超えることができた。

**処方箋枚数**

	H26	H25	前年比
入院処方箋	67,904	71,421	95.1%
外来(院内)	22,979	22,697	101.2%
院外処方箋	63,016	65,376	96.4%
院外発行率	73.28%	74.23%	98.7%

**注射処方箋枚数**

	H26	H25	前年比
注射処方箋(入院)	159,436	163,588	97.5%
注射処方箋(外来)	31,843	31,517	101.0%

**薬剤管理指導業務**

	H26	H25	前年比
指導人數	6,542	5,377	121.7%
指導回数	11,663	9,285	125.6%
通常薬請求件数	3,663	3,659	100.1%
ハイリスク薬請求件数	3,380	1,697	199.2%
麻薬管理指導加算件数	168	138	121.7%
退院時薬剤情報管理指導料算定件数	1,429	1,258	113.6%

**抗悪性腫瘍剤調製**

	H26		H25		前年比	
	(人数)	(件数)	(人数)	(件数)	(人数)	(件数)
(入院)	2,116	4,161	2,368	4,334	89.4%	96.0%
(外来)	1,436	1,668	1,791	1,916	80.2%	87.1%

**I V H 調製**

	H26	H25	前年比
調製本数(成人)	2,203	2,167	101.7%
調製本数(小児)	7,376	4,945	149.2%

**製 剂**

	H26	H25	前年比
一般製剤	65	64	101.6%
無菌製剤	28	30	93.3%
調製件数	2,832	3,106	91.2%

**臨床試験・製造販売後調査**

	H26	H25	前年比
臨床試験	0	0	—
製造販売後調査	36	34	105.9%

**持参薬鑑別**

	H26	H25	前年比
鑑別人數	7,590	7,356	103.2%
鑑別件数	8,529	11,095	76.9%

**外来指導件数**

	H26	H25	前年比
指導人數	126	99	127.3%

**入院時面談件数**

	H26	H25	前年比
面談人數	2,605	2,852	91.3%

**後発医薬品**

	H26	H25	前年比
置き換え率(数量ベース)	82.50%	38.4%	214.8%

## 21. リハビリテーションセンター臨床統計

2014 リハビリテーションセンター臨床統計

		個別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
理学療法	外院	無算定	162	211	232	213	82	75	103	73	47	74	54	74	69	66
	外院	個別	455	572	571	528	510	407	218	212	160	136	143	133	133	2,172
	入院	無算定	1,808	1,508	1,435	1,652	1,529	1,522	1,438	1,632	1,575	1,650	1,434	1,512	18,695	5,653
	合計	個別	525	647	674	610	583	454	702	389	403	546	470	516	6,519	
	外院	無算定	1,970	1,719	1,667	1,865	1,748	1,740	1,650	1,792	1,711	1,793	1,567	1,645	20,867	
	合計	個別	55	55	65	44	46	45	57	47	70	72	43	40	639	
作業療法	外院	無算定	229	280	340	293	243	234	245	262	233	185	168	232	2,944	
	外院	個別	132	107	112	134	122	111	94	87	76	94	95	48	1,212	
	入院	無算定	594	579	608	587	503	604	665	554	404	571	516	621	6,806	
	合計	個別	187	162	177	178	168	156	151	134	146	166	138	88	1,851	
	外院	無算定	823	859	948	880	746	838	910	816	637	756	684	853	9,750	
	合計	個別	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
言語聴覚療法	外院	無算定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	外院	個別	44	36	39	37	33	40	36	35	21	30	42	29	422	
	入院	無算定	294	201	289	266	228	246	271	164	151	229	151	141	141	2,631
	合計	個別	44	36	39	37	33	40	36	35	21	30	42	29	422	
	外院	無算定	294	201	289	266	228	246	271	164	151	229	151	141	141	2,631
	合計	無算定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摂食機能療法	外院	無算定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	外院	個別	77	47	53	70	79	90	71	61	55	51	51	20	725	
	入院	無算定	120	184	199	172	211	220	185	214	194	262	156	151	151	2,268
	合計	個別	77	47	53	70	79	90	71	61	55	51	51	20	725	
	外院	無算定	120	184	199	172	211	220	185	214	194	262	156	151	151	2,268
	合計	無算定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	外院	個別	125	130	168	126	119	92	131	101	144	151	112	106	1,505	
	外院	無算定	391	491	572	506	462	452	457	422	369	328	301	365	5,116	
	入院	個別	708	762	775	769	744	648	829	518	481	642	589	547	8,012	
	合計	個別	833	892	943	895	863	740	960	619	625	793	701	653	9,517	
	外院	無算定	3,207	2,963	3,103	3,183	2,933	3,044	3,016	2,986	2,693	3,040	2,558	2,790	35,516	
	合計	無算定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

況 状 の 食 給

## 1. 栄養指導回数及び延人員

數食給2.

年度	区分	一般食	特別食	給食総数	一日平均給食人員	給食総数に対する 特別食加算の割合
24		197,081	(内特別食加算 92,836) 170,842	370,910	1,016.7	25.0%
25		197,741	(内特別食加算 94,653) 172,242	372,927	1,012.5	25.4%
26		184,599	(内特別食加算 102,646) 181,372	365,971	1,005.0	28.0%

### 3. 主要特別食數內訛

区分 年度	塩 制 限 食	分 析 食	透 析 食	塩 蛋 制 限 食	分 別 白 食	エネルギー 指 定 食	分 別 白 食	脂 肪 制 限 食	脂 肪 制 限 食	胃 切 除 食	腸 切 除 食	学 童 幼 児 食	や わ ら か ご 飯 食	高 蛋 白 食	管 流 動 食	そ の 他	計
24	10,745	8,097	5,337	31,127	6,860	1,768	1,140	2,353	0	12,276	9,662	137	21,389	59,951	170,842		
25	13,598	7,543	5,342	23,814	6,455	3,173	1,455	2,497	847	8,722	10,923	0	19,440	68,433	172,242		
26	18,657	9,157	6,103	25,340	4,998	3,205	1,690	1,877	4,660	7,546	10,506	0	18,951	68,682	181,372		

(单位: 件)

## 22. 栄 養 科

## 23. 平成26年度糖尿病委員会活動報告

### メンバー紹介

医師：須田克幸・竹田文洋

臨床検査技師：伊藤奈穂 薬剤師：鎌田敬志 石川大介 栄養士：斎藤禎子

助産師：後藤千恵 看護師：百瀬 幸 佐藤恵美 宅井さやか 斎藤まゆ 伊藤有紀子 秋葉彩楓  
若生有子 板垣希美 高橋悠里 太田有紀 長濱恵美 櫻井あき子 押井あけみ

1、定例委員会 每月1回 開催 (第1火曜日)

2、糖尿病教室 每月第2金曜日 14:00~15:00

期 日	内 容	講 師	参加者
4月11日	糖尿病って、どんな病気？ほかの病気との深い関係 新しいHbA1cの見方	看護師	3名
5月9日	糖尿病と動脈硬化の関係 簡単！コレステロールの見方減らし方	内科医師 検査技師	5名
6月13日	雨の日でもできる効果的な運動療法 熱中症予防—夏場の水分補給のしかた—	理学療法士 看護師	10名
7月11日	無理なく継続食事療法 知って得する食生活のこつ	管理栄養士 看護師	1名
8月8日	糖尿病薬と仲が悪いのだ～れだ？—薬と薬の飲み合わせー	薬剤師	5名
9月12日	糖尿病と腎不全 家庭で血圧を測ろう	内科医師 看護師	6名
10月19日(日) 14:00~16:00	市民講座「糖尿病のつどい」 講師：丸谷先生 テーマ：「糖尿病と脳血管疾患」 宅井さやか テーマ：「脳血管疾患予防のポイント」	委員全員対応	27名
11月7日	糖尿病と眼の病気 感染予防とその対策	眼科医師 看護師	8名
12月12日	プラーカコントロールで歯周病予防（歯磨き実践） 年末年始の食事の仕方	歯科衛生士 管理栄養士	5名
1月9日	糖尿病とストレス 災害時の備え	臨床心理士 看護師	3名
2月13日	糖尿病神経障害ってどんな病気？ フットケア実践	看護師	1名
3月11日	糖尿病と妊娠	看護師	0名

3、糖尿病だより（患者向け広報）発行：月1回

平成26年3月までで第218号となった。

#### 4、院内研修会

期　　日	内　　容
平成26年6月3日(火) 17:45~18:45 講堂	「院内ヒヤリ・ハット報告からの事例学習会」 委員会主催 事例検討を行う参加型の研修
平成27年2月3日(水) 18:00~19:00 講堂	「フットケア」委員会主催 演習を取り入れた実践研修

#### 5、院外発表

- ◎第5回庄内薬剤師糖尿病講演会 2014年7月5日 鶴岡  
 「不規則勤務の方に対してのインスリン導入を通して」 診療部薬局 石川大介
- ◎第3回日本くすりと糖尿病学会学術集会 2014年11月2日・3日 福岡  
 「ワンタッチウルトラビューとワンタッチペンへ交換3年後の血液浄化療法センター通院患者へのアンケート調査」 診療部薬局 鎌田敬志 看護部血液浄化療法センター 宅井さやか
- ◎第2回日本糖尿病協会療養指導学術集会 2014年7月12・13日 京都  
 「2型糖尿病における脳梗塞発症予防の要因分析」 看護部内科外来 百瀬 幸
- ◎糖尿病ケア：メディカ出版 2014年5月号 vol. 11. No 5 P422-428 看護部内科外来 百瀬 幸
- ◎糖尿病ケア：メディカ出版 2014年7月号 vol. 11. No 7 P4-5 看護部血液浄化療法センター 宅井さやか

#### 6、その他の活動

- ・フットケア外来を内科外来及び血液浄化センターにて実施し、内科外来延べ35数件/年、血液浄化センター述べ286件/年でセルフケア、悪化予防が図られている。
- ・「糖尿病看護マニュアル」の改訂を行い、関連部署へ配布する。
- ・妊娠糖尿病および糖尿病合併妊娠患者指導を糖尿病教室、入院棟内で実施している。
- ・外来において、「糖尿病透析予防加算」算定に向けた体制整備を行っている。

#### <学会・研修会への参加>

- ・第57回日本糖尿病年次学術集会 2014年5月16~18日 大阪 血液浄化療法センター 宅井さやか
- ・第2回日本糖尿病協会療養指導学術集会 2014年7月12・13日 京都 8西 長濱恵美
- ・糖尿病重症化予防（フットケア）研修 2014年7月12日・13日 秋田 血液浄化療法センター 斎藤まゆ
- ・第19回日本糖尿病教育・看護学会 2014年9月20・21日 岐阜 内科外来 百瀬 幸
- ・平成26年度日本糖尿病療養指導士受験者用講習会 2014年10月18・19日 仙台 薬局 石川大介
- ・第30回日本糖尿病・妊娠学会 2014年11月28日・29日 長崎 4西 後藤千恵
- ・日本糖尿病学会 第52回東北地方会 2014年11月8日 仙台 中央検査科 伊藤奈緒
- ・第30回日本糖尿病・妊娠学会 2014年11月28日・29日 長崎 4西 後藤千恵
- ・第49回糖尿病学の進歩 2015年2月20・21日 岡山 栄養科 斎藤禎子
- ・第13回日本フットケア学会年次学術集会 2015年2月14・15日 東京 血液浄化療法センター 宅井さやか
- ・第34回 糖尿病診療—最新の動向 医師・医療スタッフ向け研修講座 東京 太田有紀

## 24. NST (栄養サポートチーム : Nutrition Support Team) 委員会活動報告

### 1. NST委員会 委員

二瓶幸栄（医師） 安宅 謙（医師） 坂本 薫（医師） 井上裕子（看護師） 秋野博子（看護師）  
 石井 佳（看護師） 富樫悠奈（看護師） 田中大輔（薬剤師） 佐藤拓也（薬剤師）  
 富樫博子（管理栄養士） 鈴木貴志（臨床検査技師） 高橋裕美（臨床検査技師）  
 五十嵐知依（言語聴覚士） 石垣佑美（歯科衛生士）

### 2. 活動内容

NST委員会は、主に栄養に関わる管理、提言、啓蒙などの活動を行っている。平成17年より本格的な活動を開始し、引き続き回診・レクチャーなどを中心に活動を行った。

#### ● スクリーニング（入院時初期評価）

入院患者に対し、スクリーニングと栄養管理計画書

2014. 1 ~ 2014. 12までのスクリーニング実施数9438名、NST介入依頼数は58名であった。

NST依頼患者の平均年齢76.7歳（男女比1：1）であった。

介入時の栄養状態が低下しているほど死亡の転帰をたどる症例が多くかった。

介入時栄養状態と最終転帰について

介入時栄養不良なし	12 (20%)	自宅・施設退院	7	転院	3
		死 亡	2		
介入時軽度栄養不良	24 (41%)	自宅・施設退院	11	転院	8
		死 亡	5		
介入時中等度栄養不良	12 (21%)	自宅・施設退院	5	転院	5
		死 亡	2		
介入時高度栄養不良	10 (17%)	自宅・施設退院	3	転院	2
		死 亡	5		

#### ● 回診（毎週水曜日）

定例回診数 50回

新規紹介患者 58名（男性29名、女性29名）

回診延べ患者 224名

平均年齢 78.1歳（44-92）

うち褥瘡保有患者 17名

〈その他〉褥瘡回診・褥瘡ハイリスクラウンド・胃瘻ラウンドに参加

#### ● ワーキンググループ活動

・ガイドライン：経管栄養・嚥下・口腔ケア・静脈栄養について運用中

#### ● 広報活動

・NST通信、荘内病院ホームページ

### ● 教育活動（セミナー・学習会など）

#### 院内学習会

- 4月24日 「摂食嚥下について」「口腔ケアについて」  
7月4日 「経管栄養の栄養管理について」～胃瘻・腸瘻の安全な取り組みについて～（看護部研修会）  
7月18日 「基本的な食事介助」  
9月5日 「PEG関連感染防止と看護ケア」  
9月19日 「胃管カテーテル挿入の実際」（看護部研修会）  
9月24日 「低栄養患者の感染症」

#### NST専門療法士資格取得のための実地修練の実施

期間2014年5月27日～6月25日

新庄徳洲会病院 管理栄養士1名  
県立中央病院 看護師2名

### 3. 入院棟栄養カンファレンス

入院患者に対する「NST初期評価シート」を電子カルテ上で入力し、「栄養管理計画書」は、原則全入院患者に対して管理栄養士が作成し、入院棟における定期的な評価（栄養カンファレンス）を多職種で実施し適切な栄養管理に取り組んでいる。

### 4. 学会・研究会・セミナー（参加・発表など）

平成26年2月11日・13日 第29回 日本静脈経腸栄養学会（横浜）

「胃癌周術期における安静時代謝量と栄養状態」 富樫博子（管理栄養士）

「分子標的服用中の患者の栄養管理に対するNST薬剤師の役割」 佐藤拓也（薬剤師）

「看護師によるNST専従業務の現状」 石井 佳（看護師）

平成26年5月16日・17日 第37回 日本栄養アセスメント研究会（盛岡）

田中大輔（薬剤師）

平成26年7月20日・21日 J S P E N看護部会 看護師トレーニングセミナー

富樫悠奈（看護師）

平成26年11月8日・9日 平成26年度栄養サポートチーム（NST）専門療法士試験（京都）

富樫悠奈（看護師）

平成26年12月12日 第12回 山形NSTセミナー（山形市）

佐藤拓也（薬剤師）

### 5. 今後の課題

- 1) NST基準の栄養不良判定の作成と提示、抽出、フィードバック
- 2) 各部門・各職種の活動内容の評価・発表
- 3) コンサルテーションシステムの確立
- 4) 口腔ケアの充実
- 5) リハビリテーション栄養への取り組み
- 6) 他チームとの連携と情報共有
- 7) 退院後の栄養管理継続のための地域連携
- 8) NSTスタッフ、職員の啓蒙とスタッフのレベルアップ

## 25. 緩和医療委員会の活動報告

### 1. メンバー紹介（15名）

医 師（2名）：鈴木聰（委員長）、和泉典子

薬剤師（2名）：阿部和人（副委員長）、大井直子

看護師（9名）：佐藤千鶴子、富樫清、阿部仁美、阿部美知子（緩和ケア認定看護師）、風間千沙子  
佐々木孔美（がん化学療法看護認定看護師）、上林沙希子（緩和ケア認定看護師）、  
竹内梨紗（乳がん看護認定看護師）、松浦直美、

理学療法士（1名）：白幡延浩

栄養士（1名）：富樫博子



### 2. 緩和医療委員会の活動内容

- 1) 患者・家族会：季節を感じ、気分転換を図ることで、闘病生活のなかでのモチベーションアップや前向きな気持ちにつながる機会をつくるために開催
- |               |             |
|---------------|-------------|
| 4月26日 お花見会    | 8月16日 花火鑑賞会 |
| 12月20日 クリスマス会 | 2月21日 ひなまつり |

- 2) グリーフカード：大切な方を亡くしたご家族のグリーフケアとして作成。7月、12月、3月に発送。

- 3) 院内教育活動：緩和ケア入門講座開催

- 平成26年4月24日「がん疼痛の評価と治療の実際」 和泉 典子
- 平成26年5月22日「医療良麻薬の選択のコツと注意点レスキュー自己管理について」 阿部 和人
- 平成26年6月26日「がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン」 鈴木 聰
- 平成26年8月28日「終末期がん患者の輸液のガイドライン」 大井 直子
- 平成26年10月23日「がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン」 和泉 典子
- 平成26年11月27日「化学療法の副作用対策～悪心・嘔吐の看護ケア」 佐々木 孔美
- 平成27年1月15日「臨死期のケア」 阿部 仁美
- 平成27年2月19日「皮下輸液・持続皮下注射」 阿部 美知子

#### 4) その他

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会（PEACEプロジェクト）開催（10月12日、13日）  
ELNEC-J コアカリキュラム開催（11月23日、24日）



患者・家族会の様子



入門講座の様子

### 3. 緩和ケア依頼件数

平成26年度の緩和ケア依頼人数は97件（図1）であった。依頼科別では外科31件、消化器内科20件、呼吸器内科16件、婦人科10件の順となっていた。また昨年は依頼のなかった循環器内科、神経内科からの依頼も各1件あり、各科に緩和ケアが普及してきているのではないかと考えられた。依頼内容は複数の内容に渡ることも多く232件で、依頼内容については患者の精神的支援が44件と一番多く、次いで痛み・しびれ36件、家族ケア26件、在宅療養・退院支援24件、意思決定支援23件（図2）であった。依頼内容から、患者・家族の精神的サポートや意思決定支援が求められていることがわかった。詳細は以下のグラフに示す。

«グラフ»

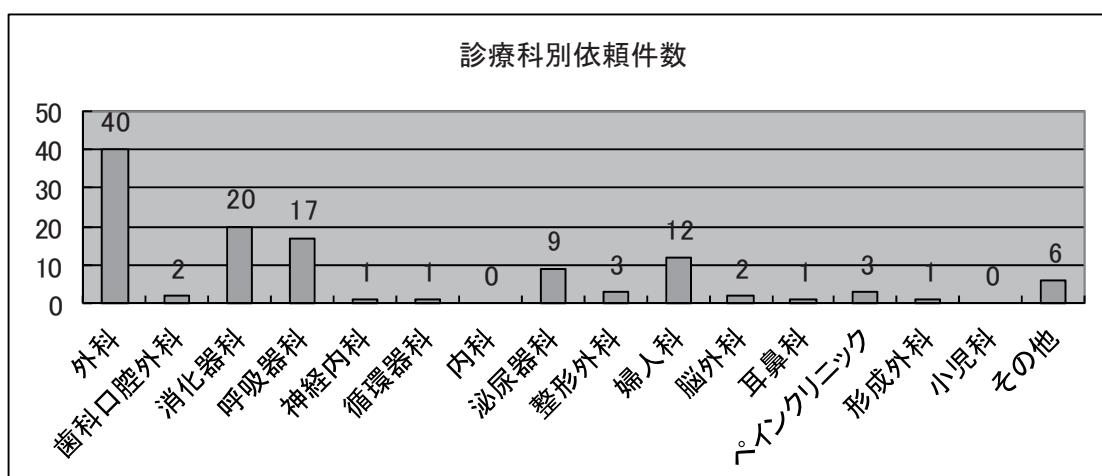


図 1

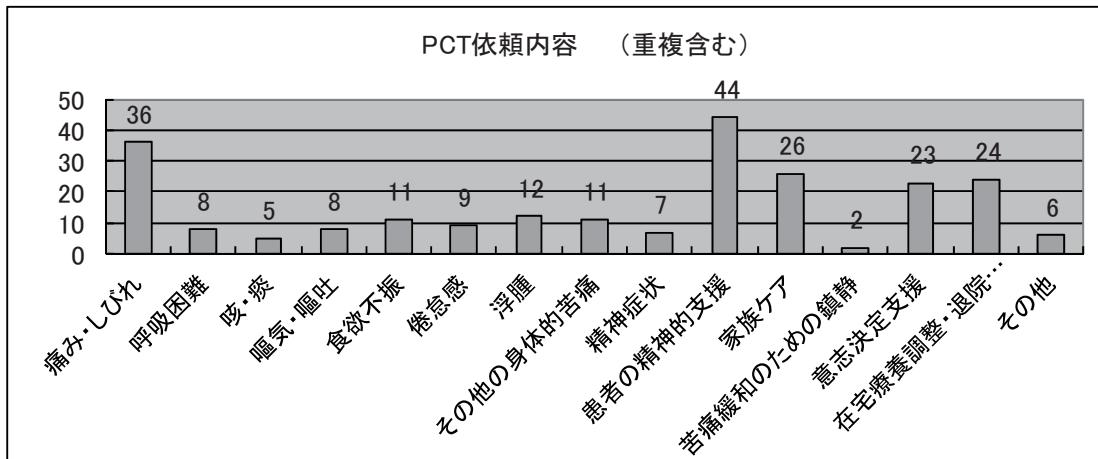


図2

#### 4. 講演会・研究会

- 第1回つるやくネットワーク生涯学習研修会 (平成26年4月23日 にこふる)  
「オピオイドの服薬指導について～こんな時どうする？～」 阿部 和人
- 鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院研修会  
(平成26年5月22日 湯田川温泉リハビリテーション病院)  
「経口抗癌剤、医療用麻薬使用時のコツと注意点」 佐々木 孔美、上林 沙希子
- 庄内プロジェクト 緩和ケアを学ぼう会 (平成26年6月27日 庄内病院講堂)  
「鶴岡市立庄内病院におけるがん緩和ケア支援体制」 和泉 典子  
「あしたから始まるグリーフケア」 上林 沙希子
- 鶴岡地区緩和ケア学術講演会 (平成26年7月30日 東京第一ホテル鶴岡)  
「緩和ケアチーム紹介患者への介入状況と当院における緩和ケアの課題」 和泉 典子
- 鶴岡地区医師会訪問看護ステーションハローナース研修会 (平成26年8月19日 ハローナース)  
「終末期がん患者における苦痛緩和のための鎮静」 和泉 典子
- 庄内プロジェクト 緩和ケアを学ぼう会 (平成26年9月1日 庄内病院講堂)  
「難しい場面でのコミュニケーションを考えてみよう」 阿部 美知子
- 第8回 日本緩和医療学会年会 ポスター発表 (平成26年10月4日 愛媛県松山市)  
「フェンタニル貼付とオキシコドン注の併用が有効だった1例」 大井 直子
- 介護老人保健施設みづばしょう研修会 (平成26年10月21日 みづばしょう)  
「最期まで心とお口に潤いを」 上林 沙希子
- がん医療フォーラム2014～がん患者さんとご家族を地域で支える仕組みづくり  
第二部フォーラム シンポジウム (平成26年12月13日 東京工科大学 蒲田キャンパス)  
「つながりと支えあいから生まれた鶴岡地域のがん緩和ケア～庄内プロジェクト～」 和泉 典子
- 山形県美容師会庄内支部研修会 (平成27年2月23日 鶴岡市中央公民館)  
「がん患者の心理、精神的支援」 阿部 美知子
- (平成27年2月27日 グランドエルサン)  
「薬・薬連携推進のために必要な病院薬剤師の役割」 阿部 和人
- Oncology NURSE 2015 3・4月号 P56-57 日総研 ケアのコツ特集  
「スピリチュアルペイに外来治療中から早期介入したケース」 上林 沙希子、佐々木 孔美

#### 5. 今後の課題

- 1) パンフレット・マニュアルの見直しと作成
- 2) がん患者スクリーニングの実施

## 26. 褥瘡予防対策委員会の活動報告

### 1. メンバー紹介（平成26年5月現在）

#### 褥瘡対策委員会

工藤勝秀（委員長：医師） 梅本貴子（副委員長：皮膚・排泄ケア認定看護師） 石原 良（医師）  
小島研司（医師） 菅原 稔（医事） 富樫とく子（看護師） 渡部 幸（看護師） 百瀬 幸（看護師）  
五十嵐可奈子（看護師） 佐藤 南（看護師） 富樫敦子（薬剤師、褥瘡学会認定師）  
国分広志（薬剤師） 工藤優子（管理栄養士） 小林 拓（理学療法士） 富樫美代（総務）  
事務局：佐藤美津子

#### NST・褥瘡対策リンクナース

菅原 知 佐藤 舞 岡部和歌子 佐々木 摂 武田しのぶ 難波亮子 加藤 愛  
佐藤節子 工藤真紀子 富樫千代美 中條由美 渡部美佳

### 2. 褥瘡予防対策委員会の組織

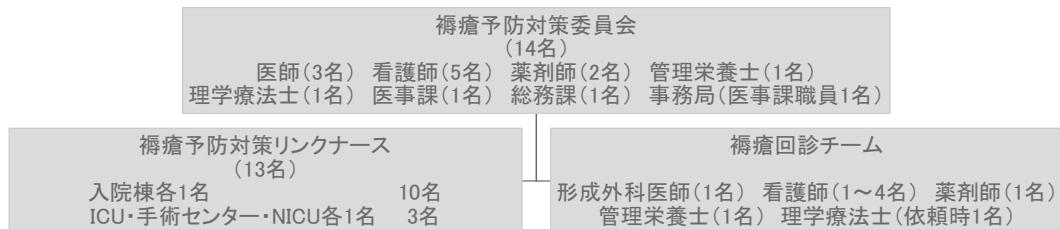


図1 組織図

本委員会は、迅速な褥瘡予防対策・強化を図ると共に、適切な褥瘡ケアを提供し早期改善・早期治癒・在宅を視野において連携強化を目標に活動している。リンクナースを委員会の下部組織として、褥瘡リスクアセスメントをはじめとし、体圧分散寝具の選択、ケアマニュアルの評価、現場スタッフ教育を行い、褥瘡回診チームはベッドサイドでの総合的なケアを実践し活動している。

### 3. 褥瘡委員会の活動

#### ○褥瘡予防対策委員会

- ・年5回 委員会開催（定例委員会：4回、臨時委員会：1回）
- ・年2回 褥瘡研修会
- ・年5回「WCT Times」の発行（No1～5）
- ・月1回 褥瘡予防・スキンケアラウンド

#### ○褥瘡回診チーム

- ・週1回 褥瘡回診・カンファレンス

#### ○褥瘡予防対策リンクナース

- ・月1回 会議
- ・月1回 褥瘡予防・スキンケアラウンド
- ・褥瘡回診同行
- ・各入院棟専任褥瘡管理者

## ○その他

- ・車椅子用クッションの運用方法の作成
- ・エアマットの設定マニュアル・返却方法マニュアル作成

市民公開講座の開催で予防対策を市民へ広く情報提供している。今後、院内ではエアマットが適正使用できるようマニュアル作成し、効果的なポジショニングの検討、指導を強化した。来年度は電子カルテ更新に伴い、褥瘡管理システムの導入が決定している。

## 4. 褥瘡研修会の開催

期日	内容	参加
平成26年 11月1日(水) 13:00~	「褥瘡の基礎知識」 形成外科医師 工藤勝秀 「床ずれ予防のおはなし」 皮膚・排泄ケア認定看護師 梅本貴子 体験「体位変換」「オムツ交換」「背抜き」「保湿剤の塗り方」	院内79名 院外14名 計 93名 参加
平成27年 3月4日(水) 18:00~19:00	「ブレーデンスケールってなに?」 皮膚・排泄ケア認定看護師 梅本貴子氏 「劇団WTCによる実演ドラマ」 「実践報告—発生0に向けた取り組みー」 7階西入院棟 NICU リハビリセンター	院内128名 院外 6名 計 134名 参加

## 5. 院外発表

- ・「NSTと協働による胃瘻管理への取り組み」 梅本貴子  
第23回日本・創傷・オストミー・失禁学会 平成26年5月16・17日：大宮ソニックスティ
- ・「褥瘡保有者の退院指導とフローの作成」 佐藤南  
第11回日本褥瘡学会 東北地方会 平成26年6月28日：山形テルサ
- ・「褥瘡予防強化に向けたラウンド導入の報告」 梅本貴子
- ・「褥瘡の新規発生率とリンクナースの役割に対するやりがいと負担感の変化」 百瀬幸
- ・「『褥瘡チーム回診記録』のアンケート調査」 富樫敦子  
第16回日本褥瘡学会学術集会 平成26年8月28・29・30日：名古屋国際会議場
- ・「褥瘡予防ラウンドにおける理学療法士の活動報告」 小林拓  
第53回全国自治体病院学会in宮崎 平成26年10月30・31日：シーガイアコンベンションセンター

## 6. 平成26年度褥瘡に関するデータ報告と分析

- ・褥瘡有病率：6.16%（前年度6.32%）  
(日本褥瘡学会2010年調査：2.94%)
  - ・褥瘡推定発生率：1.09%（前年度1.31%）  
(日本褥瘡学会2010年調査：1.40%)
  - ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算：1007件・褥瘡回診：12.9人/週
- ※有病率(%) = 褥瘡保有者/調査日の入院患者数 (24時時点+退院患者) × 100
- 発生率(%) = 入院後褥瘡発生患者数/調査日の入院患者数 (24時時点+退院患者) × 100

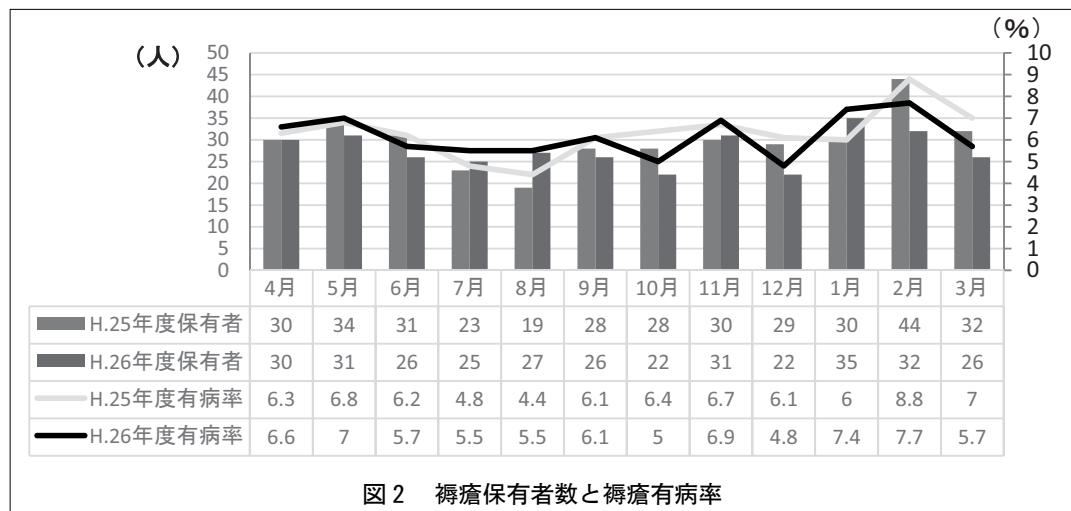


図2 褥瘡保有者数と褥瘡有病率

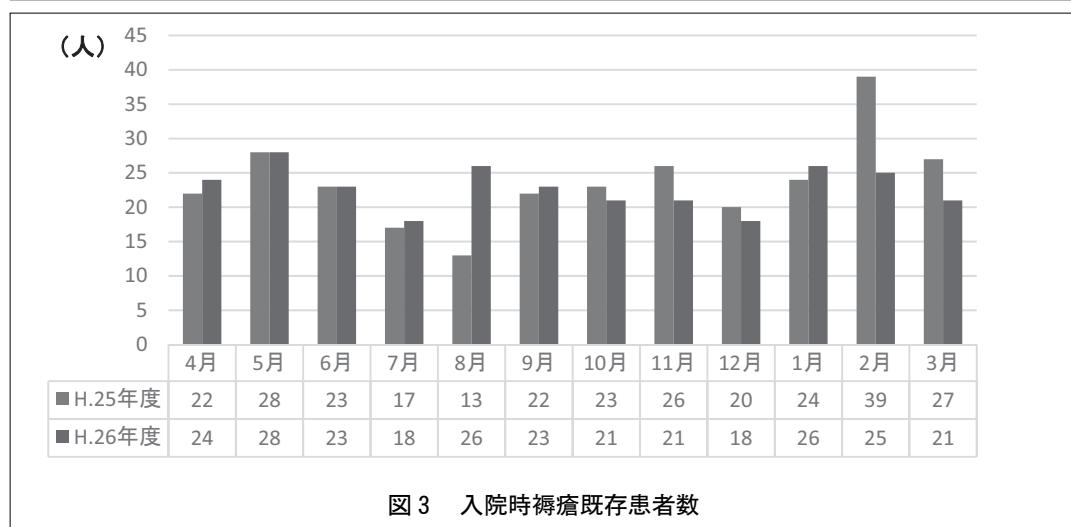


図3 入院時褥瘡既存患者数

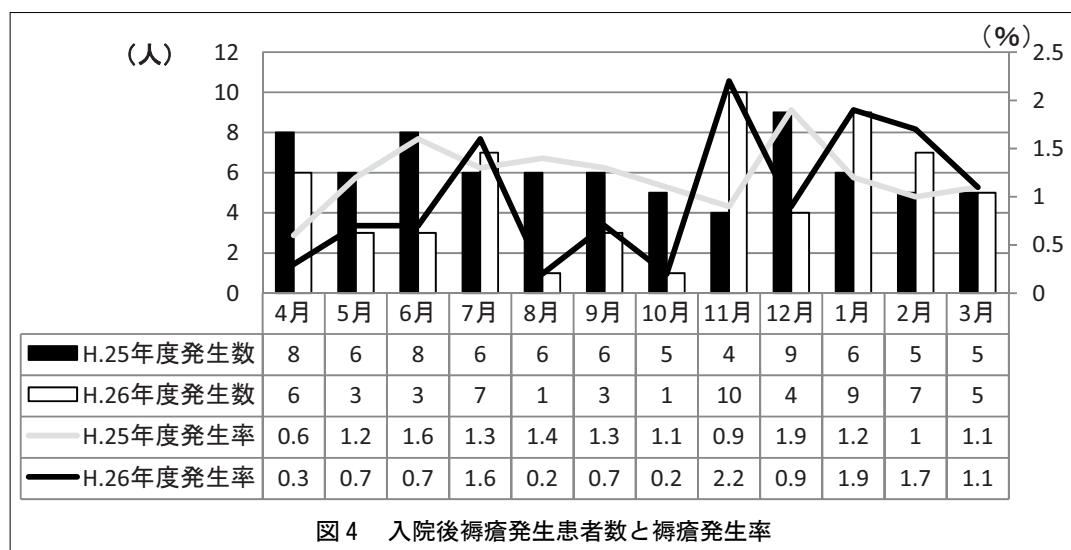


図4 入院後褥瘡発生患者数と褥瘡発生率

前年度比で、有病率は、6.32%から6.16%へ減少し、入院後発生率も、1.09%（前年度1.81%）と当院の指標である1.77%を大幅に下回った。物品が増加したことで入院当初から効果的な除圧ができるようになってきている。「褥瘡・予防スキンケアラウンド」の継続、各部署のリンクナースの働きかけにより、褥瘡予防の意識が向上している結果が新規発生の低下につながった。また、在宅においては、情報提供しており、今後も多職種との連携を深め褥瘡予防対策の構築を目指していきたい。

## 7. 今後の課題

1. 体圧分散寝具・高機能エアマット効果的な運用と適正配置
2. ポジショニングクッションの充実
3. 地域連携強化に向けた退院前カンファレンスの定着
4. 在宅につながる情報の共有化
5. スキンケアの標準化

## 27. I C T (感染対策チーム : Infection Control Team) 活動報告

### 1. メンバー紹介

- I C T (◎委員長 ○副委員長) : 12名  
 【医 師】◎鈴木 聰 (I C D)    【看護師】○若松由紀子 (感染管理認定看護師)、大島幸子、栗田香、佐藤さおり、庄司敦子、上林春佳    【検査技師】大塚隼人、安在冬虹  
 【薬剤師】土屋宏美 (感染制御認定薬剤師) 草島宏平    【作業療法士】佐藤麻人
- 感染対策リンクナース委員会 : 16名  
 大島幸子 (委員長)、山本麻衣、阿部礼子、早川由紀、石川由紀、長谷川智子、小南亞矢子、今野里沙、佐藤晴子、難波亮子、本間春圭、佐藤靖子、飯田愛、小南志保、豊田みゆき、八向せつ
- 感染対策リンクスタッフ : 5名  
 【臨床工学技士】長谷川幸人    【放射線技師】富樫峰子    【栄養士】齋藤禎子  
 【総務課用度係】五十嵐雅也    【総務課施設係】渡部一彦

### 2. 院内活動

項目	活動内容
サーべイランス	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 微生物 (MRSA・CD・MDRP・ESBL)</li> <li>■ 中心静脈カテーテル関連血流感染 (集中治療センター)</li> <li>■ 人工呼吸器関連肺炎 (集中治療センター)</li> <li>■ 手術部位感染 (外科347症例、整形外科177症例)</li> </ul>
ラウンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週火曜 血液培養陽性者および耐性菌検出患者ラウンド</li> <li>・入院棟12部署、中央/外来8部署、コメディカル6部署、委託業者4部署</li> </ul>
職員教育	<p>【全職員対象】</p> <p>7月 講演会「病院における結核感染対策」(山形病院 寺下先生) 190名        9月 講演会「抗菌療法の考え方と新潟大学におけるAST活動」        (新潟大学 田邊先生) 45名</p> <p>10月 感染症入門講座「アンチバイオグラムとTDM」19名        11月 P I C C ハンズオンセミナー 26名        1月 インフェクションコントロール活動報告会 155名</p> <p>【看護師、看護補助者対象】</p> <p>7月 研修会「“疥癬”早く見つけ、広げないために・・・」</p>
広報活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I C Tニュース発行 (5月、8月、1月)</li> <li>・ I C Tインフォメーション vol. 1～3 発行、</li> <li>・ 2013年アンチバイオグラム配布</li> </ul>
マニュアル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベスプラ「真空採血管および注射器による採血」</li> <li>・ベスプラ「ドレッシング交換 (C V)」</li> </ul>
感染対策の見直し・導入	<p>4月 結核菌検査L U M P法の導入        4月 ニトリル手袋変更        12月 ベッドパンウォッシャー導入 (8西・7西・6西・6東)        3月 サージカルマスク変更</p>

### 3. 地域連携および院外活動

項目	活動内容
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>年4回 加算2施設と合同カンファレンス：鶴岡病院、余目病院</li> <li>年2回 加算1施設と相互ラウンド：日本海総合病院、新庄病院</li> <li>ふじの花荘研修会「高齢者介護施設における感染対策」若松由紀子</li> <li>勤務医と開業医の懇談会「疥癬アウトブレイクへの対応と課題」若松由紀子</li> <li>永寿荘研修会「冬期に流行する感染症をどう防ぐか」若松由紀子</li> <li>湯田川リハビリテーション病院研修会</li> <li>「冬に流行しやすい感染症から患者を守るためにには…」若松由紀子</li> </ul>
学会など発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>第11回 医療マネジメント学会 「人工呼吸器関連肺炎防止への取り組み」佐藤さおり</li> <li>第6回 感染制御ネットワークフォーラム 「下部消化管手術におけるサーベイランスの効果」栗田香</li> <li>第13回 山形県インフェクションコントロール研究会 「当院における疥癬アウトブレイク対応の実際と今後の課題」若松 由紀子</li> <li>第11回 庄内感染対策セミナー 「小児科入院棟における感染性胃腸炎に対する取り組み」庄司敦子</li> <li>第30回 環境感染学会 「清拭タオルのセレウス菌汚染の実態と血流感染対策」若松 由紀子</li> </ul>

### 4. おもな活動について

#### <SSI対策検討会の効果について>

整形外科の手術部位感染(以下SSI)サーベイランスは、2007年11月より開始し、今年で7年目となった。対象は膝関節および股関節における人工関節置換の手術で、2014年の感染率はそれぞれ2.2% (46件中1件)、0.0% (69件中0件)と低かった。しかし、今年から対象に加えた脊椎手術では、脊椎3.6% (28件中1件)、椎弓8.8% (34件中3件)であり(図1)、JANIS(厚生労働省院内感染対策サーベイランス)と比較すると高く、SSI対策の改善が必要であると考えられた。そのため、年1回の“SSI対策検討会”では、医師、手術センター・外来・入院棟看護師を対象に、感染率の報告、感染事例の振り返り、手術創の縫合や血糖コントロールの管理方法(糖尿病看護認定看護師による指導)などについて検討し、今後に繋げようと話し合った。

外科のSSIサーベイランスは2009年7月より開始し、創縫保護器具の使用・皮下洗浄方法の変更・閉腹セットの使用・閉創方法の変更(真皮縫合)、創処置時の標準予防策の徹底、患者の術中術後の保温など様々な改善策に取り組んできた。その結果、皮下膿瘍の件数は約6分の1に減少するなど感染率の低減に貢献することができたと考えている(図2)。また、発生したSSIをできるだけ早く治すため、効果的な創傷管理(皮膚排泄ケア認定看護師による指導)についても学び、有意義であった。

このようにSSI対策検討会は、医師や看護師同士の意見交換の場であり、かつ現状の対策を前向きに振り返る良い機会となっている。今後も効果的な情報提供と意義ある検討ができるよう取り組んでいきたい。

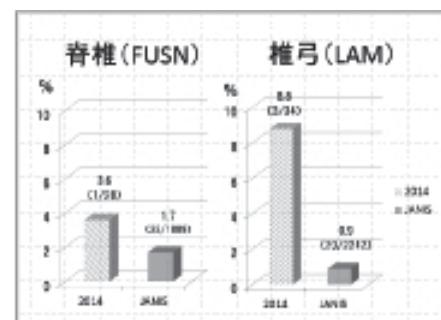


図1. 整形外科

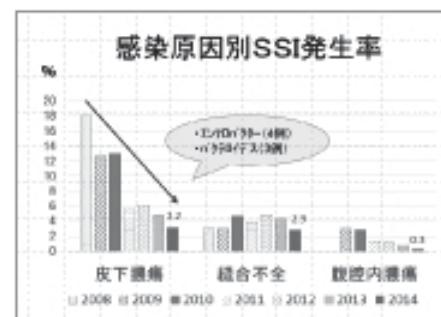


図2. 外科

### <ICTインフォメーション発行>

ICTでは、H26年5月より医師向けの感染対策情報誌「ICTインフォメーション」を新たに創刊しました（図3）。多職種対象で主に感染管理に関する情報を掲載した従来のICTニュースに対し、本誌は抗菌薬の適正使用をはじめとした感染症の治療のポイントなどを、時に専門家の学術的なお話を交えながら、的確かつ簡潔に解説した内容に仕上げるよう努力しています。ぜひ、日頃の感染症診療に役立てていただきたいと思います。（※電子カルテ掲示板にも掲載しています）



### <ベッドパンウォッシャー導入>

これまで、尿や便などで汚染された器材の処理は、手袋・エプロン・マスクなどの防護具を着用し、部屋のトイレまたは汚物槽に汚物を廃棄後、流水で洗浄し、再び戻す、退院時や他患者と共有する場合は洗浄後に薬液に1時間浸漬し自然乾燥、という工程であった。

しかし、

- ① 職員の体液や排泄物、微生物の曝露
- ② 汚染物の飛散による周囲環境汚染
- ③ 有機物や微生物の残存による交差感染
- ④ 職員個々の手による洗浄のばらつき
- ⑤ 洗浄のみでベッドサイドに常備され不衛生
- ⑥ 清洗室などの水周りを好むグラム陰性桿菌は



清掃やゾーニングが徹底していないと院内感染の原因となりアウトブレイクも報告されている、等様々な感染リスクがあり、院内感染拡大の危険性があった。

そこで、感染リスク低減および看護業務の効率化を図るために、ベッドパンウォッシャーを導入することになった。但し、経費がかかるため、今年度は排泄物による汚染器材の多い4部署（8西・7西・6西・6東）に限定して導入し活用している。現場からは「とても衛生的」と好評価であり、今後も計画的な設置に向けて、取り組んでいきたい。

### <インフェクションコントロール活動報告会>

今年度は「手指衛生！もう一度 基本から実践まで」をテーマに以下4つの演題報告を行いました。当院の実態への問題提起あり、感染症事例あり、動画ありの盛りだくさんの1時間でした。

参加した155名の職員から参加いただき、手指衛生の重要性を再認識した、手指衛生がドラマになっていた、など改めて感染対策に対する意識を高める機会となりました。

#### 各部署からの活動報告

- \*ICT看護師……………「手指衛生いつ行う？手はどう守る？」
- \*ICT検査技師……………「菌はどこにいる？どう伝播する？」
- \*感染対策リンクナース………「“手指衛生のタイミング”遵守状況調査から言えること」
- \*小児科医師……………「セレウス菌感染症を発症した超低出生体重児の1例」

## 28. 呼吸サポートチーム（RST）活動報告

### 1. メンバー紹介

- RST

正岡俊明（呼吸器外科） 岸正人（麻酔科） 渡部直人（麻酔科） 星野芳史（呼吸器科）

富樫恭子（医療安全管理者） 渡部まゆみ（集中治療センター看護師）

齋藤由美（7東入院棟看護師） 辻村りか（集中治療センター看護師）

三浦良哉（集中治療センター看護師） 佐藤慎吾（集中治療センター看護師）

長谷川幸人（臨床工学技士） 齋藤加恵（理学療法士） 田中大輔（薬剤師）

- RSTリンクスタッフ

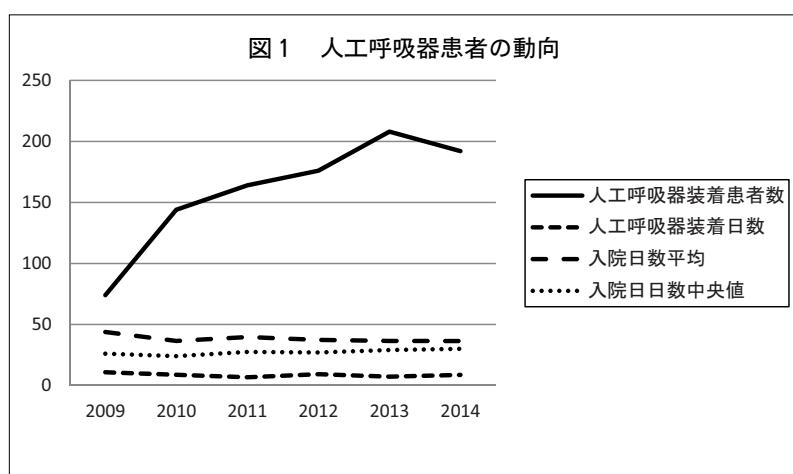
鈴木未果（4東入院棟看護師） 佐藤美香（6西入院棟看護師） 菅原美奈子（7東入院棟看護師）

後藤智子（7西入院棟看護師） 星野悠太（8東入院棟看護師）

### 2. RST介入依頼件数および人工呼吸器患者の動向

当院における、平成25年1月から12月までの人工呼吸器装着患者は208名で、人工呼吸器使用期間は1日から装着中の患者を含め最長262日で平均は6.75日、中央値2日でした。人工呼吸器患者の入院期間は死亡退院を含める1日から現在入院中の患者を含め最長332日で平均36.4日、中央値30日でした。2009年から2014年での人工呼吸器装着患者数は192名であり前年までに比べ僅かに減少傾向にあります。人工呼吸器装着日数：6～10日、入院日数平均値：36～43日、入院日数中央値：24～30日と入院日数のみ僅かに増加していますがそれ以外の数値は大きな変化はありませんでした（図1）。

このことから、人工呼吸器装着日数や入院日数などは大きな変化がないことから2009年から行っている口腔ケア実施の徹底やVAP予防が大きく寄与していると考えられます。人工呼吸器使用状況は、緊急術後症例が36%、循環不全が27%で、次いで呼吸不全が22%でした（図2）。概ね過去5年間と変わらず、緊急術後症例と循環不全の人工呼吸器使用が多い傾向となっています。



科別人工呼吸器使用状況では例年通り、脳神経外科の使用が多く、ついで外科・呼吸器内科・循環器科・内科の4科の使用が多い傾向でした（図3）。

脳神経外科ではICD・SDH・SAHによる開頭術（coil含む）の緊急症例が60%、外科では78%が消化管穿孔・閉塞の疾患、呼吸器科では呼吸不全における症例が37%を占めており、肺炎など感染に起因する

図2 人工呼吸器使用状況

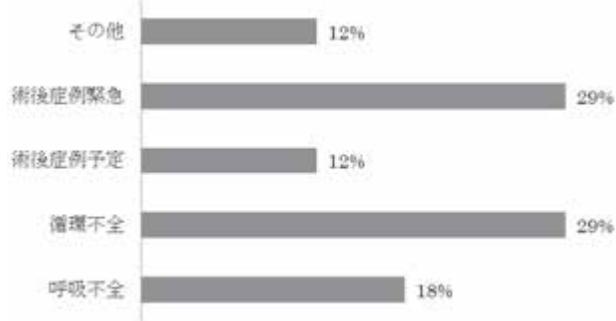


図3 科別人工呼吸器使用状況

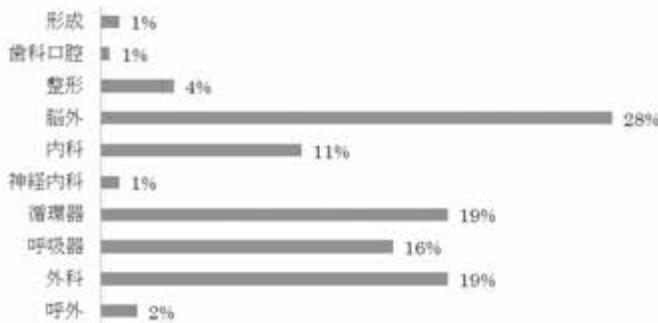
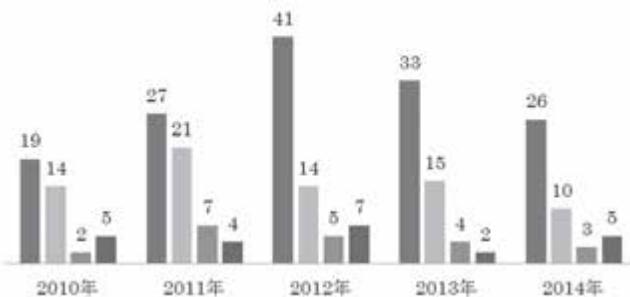


図4 年別死亡原因

■循環不全 ■呼吸不全 ■緊急術後 ■その他



例も37%、ついで喘息が17%でした。循環器科ではうっ血性心不全が49%、心停止後が41%でした。内科においても循環器科同様に、心停止後の割合が38%と多く、次いで喘息と肺水腫が14%ずつと呼吸器系の疾患が増加しています。

また、2014年の人工呼吸器装着患者の死者数は44名で昨年より10名減少しており、循環不全が原因の多くを占めていました（図4）。その内の81%が蘇生に成功した心停止でした。残りの23%は呼吸不全で死亡していました。

RST介入率（図5）は、全体の呼吸器使用患者の40.3%と昨年と比べ介入率が増加しています。しかし早期拔管が多いこと、早期の死亡退院が大半をしめており介入に至るまでもない症例も多く例年通りの結果と考えます。また、介入期間は1日から最大40日間と長く介入していた患者もいますが平均で4.1日、中央値で1日でした。人工呼吸器離脱率（図6）は2009年からの6年間のデータでは6割から7割後半程度であり、残り4割の大半は死亡退院しておりその半数は蘇生に成功した心停止での死亡退院でした。

2014年は昨年の課題であった鎮痛スケールの導入に成功しました。人工呼吸中でコミュニケーションを十分にとれない患者でも、疼痛の評価を行うことで鎮静と鎮痛の管理が標準的に行えるようになってきています。さらに今後はRASSを併用したせん妄評価（Confusion Assessment Method for the ICU : CAM-ICU）の導入を進めていき患者の予後が改善できるようにサポートしていきます。

図5 RST介入率

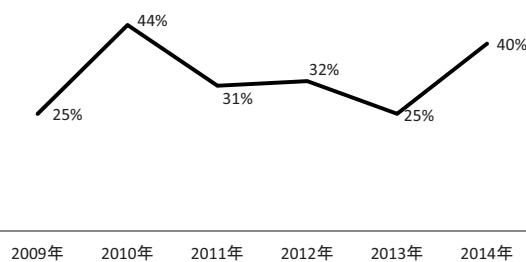
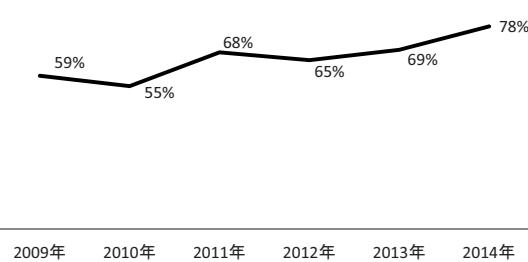


図6 人工呼吸器介入率



### 3. RST委員会活動内容

#### ① 人工呼吸器装着患者ラウンド

主に集中治療センターにおいて、人工呼吸器装着患者のうち介入依頼のあった症例に対し介入し、人工呼吸器管理から離脱までを主治医とともに管理している。症例により気管切開が必要な場合は、集中治療センターもしくは手術室での気管切開術も施行し合わせて管理している。

#### ② 日本呼吸療法医学会学術集会（秋田）で演題発表

演題名：「地方基幹病院における連日介入の成果」

発表者：三浦 良哉

日 程：7月20日の午前に口演で発表

#### ③ ハイフローセラピー（高流量酸素療法）管理マニュアルの運用

ネーザルハイフロー：Nasal High Flow (NHF) 導入に伴い、換気設定基準、離脱基準、中止基準、点検表に基づき運用している。

### 4. RSTリンクスタッフ活動報告

#### ① 呼吸ケアマニュアルのファイリング

平成25年度に作成した、呼吸ケアマニュアルのファイリングを実施し各部署に配布した。

#### ② 症例検討会の実施

呼吸療法関連の問題点を抽出（現状把握）し各部署で問題解決・改善に向けての活動を実践した。

### 5. 講演会

テーマ：人工呼吸中におけるよりよい鎮静とは

講 師：山形大学医学部 救急医学講座 准教授

山形大学医学部附属病院 高度救急救命センター 教授 中根 正樹 先生

講演日：平成27年2月27日（金）18：00～19：30 参加人数：95名

### 6. 3学会合同呼吸療法認定士

- 平成26年 第19回呼吸療法認定士取得・更新

該当者なし

## VI 2014年 荘内病院におけるがん登録の現況報告

当院は平成22年10月に山形県がん診療連携指定病院に指定され、平成23年から山形県がん診療連携協議会がん登録部会に参加し、平成25年以後院内がん登録を国に報告している。平成25年は山形県のがん登録は9,145件当院の登録は939件で山形県のがん症例の10%強が当院から登録されていた。

2014年の当院におけるがん登録の現況を報告する。登録患者858件で件数はここ数年横ばいである。来院経路は約75%が紹介（他院　がん検診　健康診断）であった。発見経路は自覚症状で受診して診断されたものが51%　他疾患経過観察中が23%　ドック・検診が26%であった。癌検診・ドック・健康診断による発見が、国立がんセンター発表の全国平均が20%以下に対し当院は26%を占めている。また当院で登録されたがん患者の約91%は当院で治療を行った。

### 来院経路別

(全症例)

来院経路	24年件数(割合)	25年件数(割合)	26年件数(割合)
自主	84 ( 9.5% )	69 ( 7.4% )	53 ( 6.2% )
紹介 他院	643 ( 72.9% )	643 ( 69.1% )	586 ( 68.4% )
紹介 がん検診	41 ( 4.6% )	47 ( 5.1% )	54 ( 6.3% )
紹介 健康診断	2 ( 0.2% )	1 ( 0.1% )	1 ( 0.1% )
紹介 ドック	12 ( 1.4% )	18 ( 1.9% )	8 ( 0.9% )
他疾患経過観察中	93 ( 10.5% )	121 ( 13.0% )	115 ( 13.4% )
その他	7 ( 0.8% )	31 ( 3.3% )	40 ( 4.7% )
合計	882 (100.0%)	930 (100.0%)	858 (100.0%)

### 発見経緯別

(全症例)

発見経緯	24年件数(割合)	25年件数(割合)	26年件数(割合)
がん検診	145 ( 16.4% )	138 ( 14.8% )	157 ( 18.3% )
ドック・健康診断	50 ( 5.7% )	67 ( 7.2% )	67 ( 7.8% )
他疾患経過観察中	166 ( 18.8% )	238 ( 25.6% )	199 ( 23.2% )
自覚症状・その他	521 ( 59.1% )	487 ( 52.4% )	435 ( 50.7% )
合計	882 (100.0%)	930 (100.0%)	858 (100.0%)

### 症例区分別

(全症例)

症例区分	24年件数(割合)	25年件数(割合)	26年件数(割合)
診断のみ（他施設へ紹介含む）	75 ( 8.5% )	42 ( 4.5% )	73 ( 8.5% )
自施設診断・自施設治療	645 ( 73.1% )	729 ( 78.4% )	631 ( 73.5% )
他施設診断・自施設治療	131 ( 14.9% )	147 ( 15.8% )	130 ( 15.2% )
他施設にて治療開始後	20 ( 2.3% )	10 ( 1.1% )	23 ( 2.7% )
その他	11 ( 1.2% )	2 ( 0.2% )	1 ( 0.1% )
合計	882 (100.0%)	930 (100.0%)	858 (100.0%)

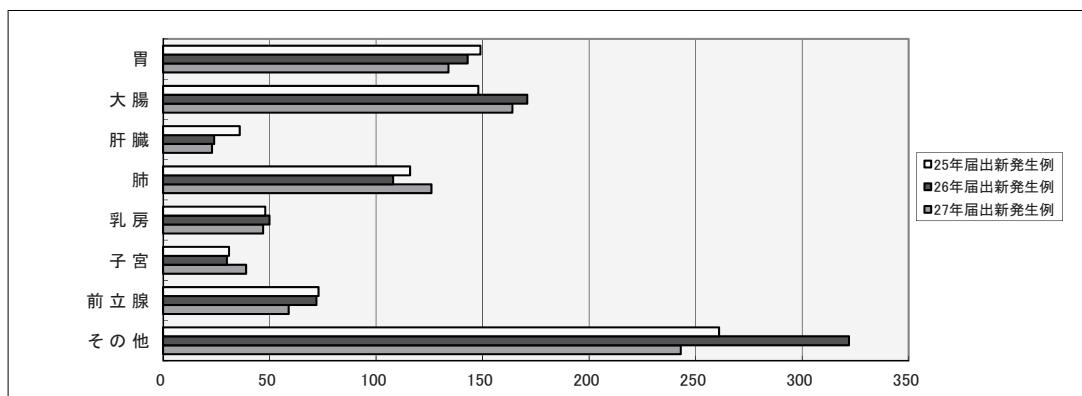
## 地域がん登録届出件数

性別	25年届出	26年届出	27年届出
男	520	532	506
女	362	398	352
総 数	882	930	858

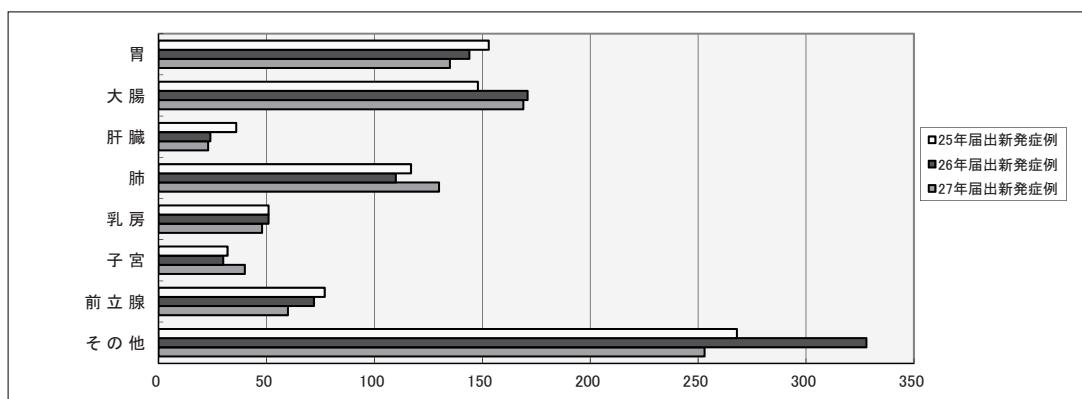
## 部位別届出件数

部 位	25年届出新発生例	25年届出全症例	26年届出新発生例	26年届出全症例	27年届出新発生例	27年届出全症例
胃	149	153	143	144	134	135
大腸	148	148	171	171	164	169
肝臓	36	36	24	24	23	23
肺	116	117	108	110	126	130
乳房	48	51	50	51	47	48
子宮	31	32	30	30	39	40
前立腺	73	77	72	72	59	60
その他の	261	268	322	328	243	253
総 数	862	882	920	930	835	858

## がん部位別新発生症例件届出数



## がん部位別全症例件届出数



## 性別別登録患者数

(全症例)

部 位	25年 男	25年 女	25年 計	26年 男	26年 女	26年 計	27年 男	27年 女	27年 計
C02-06 口唇・口腔	1	2	3	6	3	9	4	2	6
C07-08 大唾液腺	0	0	0	1	0	1	0	1	1
C09-13 咽頭	1	0	1	1	0	1	1	0	1
C15 食道	12	1	13	20	6	26	17	4	21
C16 胃	108	45	153	87	57	144	97	38	135
C17 小腸	3	2	5	2	2	4	0	0	0
C18-19 結腸	57	45	102	76	55	131	64	62	126
C20 直腸	32	14	46	20	20	40	25	18	43
C21 肛門管	1	0	1	0	1	1	0	1	1
C22 肝・肝内胆管	22	14	36	18	11	29	17	6	23
C23 胆のう	5	10	15	6	16	22	2	6	8
C24 胆管	9	12	21	10	10	20	9	10	19
C25 膵臓	17	25	42	27	24	51	14	22	36
C30-31 鼻腔・副鼻腔	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C32 喉頭	0	0	0	3	0	3	0	0	0
C34 肺	80	37	117	82	28	110	101	29	130
C37 胸腺	0	0	0	1	0	1	1	0	1
C38-47-49 軟部組織	1	2	3	4	4	8	5	4	9
C40-41 骨	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C42 造血系	10	6	16	8	7	15	9	6	15
C44 皮膚	12	18	30	13	20	33	16	8	24
C50 乳房	1	50	51	0	51	51	0	48	48
C51 外陰		2	2		2	2		0	0
C52 膀胱		0	0		0	0		1	1
C53 子宮頸部		14	14		22	22		27	27
C54 子宮内膜		18	18		8	8		13	13
C56 卵巣		5	5		11	11		9	9
C57 卵管		0	0		0	0		0	0
C60 陰茎	1		1	0		0	1		1
C61 前立腺	77		77	72		72	60		60
C62 精巢	5		5	2		2	2		2
C64-66 腎・尿路（膀胱を除く）	10	8	18	15	8	23	14	5	19
C67 膀胱	30	6	36	30	11	41	26	9	35
C70 體膜	2	7	9	5	6	11	1	5	6
C71 脳	4	2	6	4	0	4	3	1	4
C72 脳神経系	2	0	2	0	0	0	1	2	3
C73-75 甲状腺・その他の内分泌腺	1	11	12	6	8	14	1	10	11
C77 リンパ節	11	4	15	6	4	10	12	3	15
C80 原発不明癌	2	5	7	7	3	10	3	2	5
合 計	517	365	882	532	398	930	506	352	858

## 10歳年齢階級別登録数

(27年届出新発生例)

部 位	0-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-	合 計
C02-06 口唇・口腔	0	1	0	0	2	1	1	0	5
C09-13 咽頭	0	0	0	0	1	0	0	0	1
C15 食道	0	0	0	2	4	9	4	0	19
C16 胃	0	0	2	8	25	51	39	9	134
C18-19 結腸	0	0	2	9	26	46	36	5	124
C20 直腸	0	0	1	4	14	11	9	1	40
C21 肛門管	0	0	0	0	0	0	1	1	2
C22 肝・肝内胆管	0	0	0	2	5	6	9	1	23
C23 胆のう	0	0	0	0	1	1	4	2	8
C24 胆管	0	0	0	0	2	4	11	2	19
C25 脾臓	0	0	0	3	5	11	15	1	35
C34 肺	0	0	0	5	33	46	36	6	126
C37 胸腺	0	0	0	0	0	1	0	0	1
C38-47-49 軟部組織	0	0	1	0	1	2	3	0	7
C42 造血系	1	1	1	3	2	5	2	0	15
C44 皮膚	0	1	1	1	2	6	11	2	24
C50 乳房	0	2	7	6	16	12	4	0	47
C52 膀胱	0	0	0	0	0	0	1	0	1
C53 子宮頸部	2	9	8	1	2	1	4	0	27
C54 子宮内膜	0	0	1	3	1	6	1	0	12
C56 卵巣	0	0	1	2	2	2	0	0	9
C60 亀頭	0	0	0	0	0	0	1	0	1
C61 前立腺	0	0	0	3	18	24	13	1	59
C62 精巣	0	1	0	0	0	1	0	0	2
C64-66 腎・尿路(膀胱除く)	0	0	1	1	5	2	9	1	19
C67 膀胱	0	0	0	1	8	13	11	2	35
C70 體膜	0	0	0	0	2	1	3	0	6
C71 脳	0	0	0	0	1	1	0	0	2
C72 脳神経系	0	0	0	1	0	1	0	0	2
C73-75 甲状腺・その他の内分泌腺	1	0	3	3	1	2	1	0	11
C77 リンパ節	0	0	2	1	2	6	3	1	15
C80 原発不明癌	0	0	0	0	2	2	1	0	5
合 計	4	15	31	59	183	274	234	35	835

# VII 莊内病院人間ドック・検診検討委員会報告

人間ドック・検診成績表

		受診者(A) (一次検診 受診者数)	要精検者(B) (要精検率) 要精査者/受診者 (B)/(A)	精検受診者中 回報書回収(C) (精検受診率) 回収/要精査者 (C)/(B)	がん以外 その他疾患(D) 疾患/要精査者 (D)/(B)	がん(E) (陽性反応適中度) がん/要精査者 (E)/(B)	がん(E) (がん発見率) がん/受診者 (E)/(A)
H24 ドック	大腸がん検診	1,998	135 6.76%	81 60.00%	35 25.93%	4 2.96%	0.20%
	胃がん検診	1,983	90 4.54%	49 54.44%	24 26.67%	6 6.67%	0.30%
	肺がん検診	1,998	50 2.50%	36 72.00%	11 22.00%	1 2.00%	0.05%
	子宮がん検診	560	10 1.79%	7 70.00%	2 20.00%	0 0.00%	0.00%
	乳がん検診	682	71 10.41%	58 81.69%	8 11.27%	2 2.82%	0.29%
	甲状腺	682	9 1.32%	3 33.33%	1 11.11%	0 0.00%	0.00%
H25 ドック	大腸がん検診	1,966	137 6.97%	93 67.88%	34 24.82%	5 3.65%	0.25%
	胃がん検診	1,950	111 5.69%	69 62.16%	43 38.74%	9 8.11%	0.46%
	肺がん検診	1,967	61 3.10%	43 70.49%	25 40.98%	0 0.00%	0.00%
	子宮がん検診	554	11 1.99%	5 45.45%	4 36.36%	1 9.09%	0.18%
	乳がん検診	679	33 4.86%	24 72.73%	8 24.24%	0 0.00%	0.00%
	甲状腺	679	3 0.44%	3 100.00%	3 100.00%	0 0.00%	0.00%
H26 ドック	大腸がん検診	1,919	135 7.03%	97 71.85%	53 39.26%	2 1.48%	0.10%
	胃がん検診	1,909	79 4.14%	62 78.48%	35 44.30%	3 3.80%	0.16%
	肺がん検診	1,923	52 2.70%	42 80.77%	17 32.69%	2 3.85%	0.10%
	子宮がん検診	532	11 2.07%	8 72.73%	8 72.73%	0 0.00%	0.00%
	乳がん検診	629	48 7.63%	38 79.17%	7 14.58%	2 4.17%	0.32%
	甲状腺	629	2 0.32%	2 100.00%	2 100.00%	0 0.00%	0.00%
H24検診	受診者(A) (一次検診 受診者数)	要精検者(B) (要精検率) 要精査者/受診者 (B)/(A)	精検受診者中 回報書回収(C) (精検受診率) 回収/要精査者 (C)/(B)	がん以外 その他疾患(D) 疾患/要精査者 (D)/(B)	がん(E) (陽性反応適中度) がん/要精査者 (E)/(B)	がん(E) (がん発見率) がん/受診者 (E)/(A)	
	乳がん検診	202	31 15.35%	26 83.87%	5 16.13%	1 3.23%	0.50%
	甲状腺	202	5 2.48%	4 80.00%	1 20.00%	0 0.00%	0.00%
	乳がん検診	224	18 8.04%	17 94.44%	4 22.22%	2 11.11%	0.89%
	甲状腺	224	6 2.68%	5 83.33%	2 33.33%	0 0.00%	0.00%
	乳がん検診	238	24 10.08%	21 87.50%	4 16.67%	2 8.33%	0.84%
H26検診	甲状腺	238	5 2.10%	4 80.00%	4 80.00%	0 0.00%	0.00%

## VIII 死亡症例検討会

第111回：平成26年1月27日

症例1 67M AN1327

臨床診断 膜原病の疑い

高血圧

心房細動

症例提示 内科 竹田 文洋 医師

病理報告 病理科 加藤 哲子 医師

第112回：平成26年2月24日

症例1 58M AN1330

臨床診断 アミロイドーシス/多発性骨髓腫  
(疑い)

症例提示 臨床研修医 須藤 大輔 医師

指導医 内科 安宅 謙 医師

内科 佐藤 勇也 医師

病理報告 病理科 内ヶ崎新也 医師

第113回：平成26年8月25日

症例1 57M AN1326

臨床診断 CPAOA

症例提示・病理報告

臨床研修医 岡本 綾 医師

指導医 病理科 内ヶ崎新也 医師

内科 菅 秀紀 医師

## 2013年 剖検記録要約

剖検番号	年齢	性別	臨床診断[科名]	病理診断
1321	57	男	突然死 〔救急科〕	びまん性心筋傷害 1. 気管支肺炎
1322	58	女	脳出血 〔救急科〕	三重癌 1) 急性骨髓性白血病 転移：あり 2) 胃癌 転移：なし 3) 子宮体癌 転移：なし 1. 脳出血
1323	26	男	突然死 〔救急科〕	大動脈囊胞性中膜壊死 1. 大動脈瘤破裂 2. 心タンポナーゼ
1324	61	男	突然死 〔内科〕	糖尿病 1. 急性心筋梗塞 2. 心肥大 3. 透析腎 4. 粘液硬化症
1325	80	男	腎不全・肺炎 〔内科〕	三重癌 1) 胃癌 転移：なし 2) ホジキンリンパ腫 転移：なし 3) 甲状腺癌 転移：なし 1. 磺酸腎症 2. 肺膿瘍 3. 陳旧性心筋梗塞
1326	56	男	突然死 〔内科〕	諸臓器の高度うっ血水腫 1) 肺 2) 肝臓 3) 腎臓 4) 腸管・脾臓・精巣など 1. 心肥大併心腔拡張
1327	67	男	突然死 〔内科〕	肺梗塞 1. 気管支肺炎 2. 心肥大 3. 粘液硬化症
1328	84	男	壞死性腸炎 〔内科〕	心肥大併心筋虚血 1. 小腸の出血性壞死
1329	91	男	急性出血性胃潰瘍 〔救急科〕	治療後の胃十二指腸潰瘍+心アミロイドーシス 1. 腎尿細管変性と間質線維化 2. 左大腿部異型脂肪 腫瘍 3. 左耳下腺多形腺腫
1330	58	男	アミロイドーシス・ 多発性骨髓腫 〔内科〕	形質細胞腫 転移：あり+全身性アミロイドーシス+左 不顕性腎細胞癌 転移：なし

# 莊内病院年譜

2014年（平成26年）

2014年

- 1月1日 元旦
- 1月6日 仕事始め 院内激励巡視  
鶴岡市永年勤続表彰（25年勤続）12名  
鶴岡市名刺交換会 グランドエルサン
- 1月16日 鶴岡地区歯科医師会新年会
- 1月17日 鶴岡地区医師会新年会
- 1月20日 optim パネルディスカッション 市民公開講座 聖路加看護大学 講堂
- 1月21日 山形県がん診療連携推進協議会
- 1月30日 新潟大学関連病院長会理事会
- 2月6日 東北がんネットワーク
- 2月22日 庄内プロジェクト活動報告会
- 2月23日 庄内地域医療情報ネットワーク研究会 酒田リッチアンドガーデン
- 2月26日 新潟大学関連病院長会議
- 3月1日 庄内看護専門学校卒業式
- 3月9日 みらい健康調査セミナー
- 3月11日 震災訓練
- 3月12日 庄内地域保健医療協議会
- 3月14日 山形大学 臨床研修委員会
- 3月17日 鶴岡市防災会議
- 3月25日 山形大学医学部卒業式  
鶴岡市休日夜間診療所協議会総会
- 3月31日 退職職員 黒井事業管理者ほか看護師12名 薬剤師1名 技士1名  
事務部3名  
転出者 事務部 6名
- 4月1日 辞令交付式  
鶴岡市病院事業管理者 三科武 就任  
新規採用 研修医（管理型）5名 看護師27名 臨床検査技師1名 理学療法士1名  
転入者 事務部 9名  
看護師院外派遣研修 昭和大学横浜北部病院 1名  
新潟市民病院 1名  
4階西病棟のNICU 6床、GCU 6床に増床  
外来総合相談開設 前看護部長が相談員として就任
- 4月10日 鶴岡准看護学院 入学式
- 4月12日 月曜会総会 鶴岡市退職者送別会 グランドエルサン
- 4月18日 庄内看護専門学校 入学式21名入学
- 5月7日 鶴岡地区病院協議会 発足 第1回会議
- 5月8日 グリーンボランティア 発足し 4階屋上庭園の花のお世話開始

- 5月13日 ふれあい看護体験 市内高校生が参加  
5月14日 休日夜間診療所協議会  
5月30日 自治体病院協議会 総会  
6月4日 新医師公舎起工式  
　　済生館 館長 平川先生 講演会  
6月5日 鶴岡准看護学院講師懇談会 第一ホテル鶴岡  
6月27日 鶴岡市立荘内病院創立記念日 創立101周年  
　　表彰者 10年勤続医師 内ヶ崎新也 竹田文洋 二瓶幸栄  
　　20年勤続感謝状贈呈 医師 岸正人 小池千里 吉田宏  
　　看護師 阿部美知子 阿部由美 大瀧志保 小野寺ひろみ 叶野明子 川村都志子  
　　齋藤江里子 齋藤真紀 佐藤香 佐藤めぐみ 佐藤恵 菅原紀子 菅原まゆみ  
　　菅原綾子 中野要 和田美枝  
7月10日 山形県自治体病院開設者懇談会  
7月18日 防災訓練  
7月19日 レジナビフェア 東京  
　　山形県医療マネージメント学会  
7月22日 勤務医と医師会員懇談会  
7月24日 公立病院連盟 東北支部総会 十和田市立病院主幹 奥入瀬森のホテル  
8月5日 第4回 荘内病院open hospital  
8月23日 東北がんネットワーク  
9月12日 山形県病院協議会総会 メトロポリタン  
　　特別表彰 黒井秀治前病院事業管理者 25年永年勤続表彰14名  
9月18日 東北厚生局 施設基準適時検査  
9月21日 荘内看護専門学校 看学祭  
9月26日 山形大学解剖慰靈祭  
　　新潟大学医学部学士会 荘内支部総会  
9月28日 荘内病院OB会  
10月1日 鶴岡市新市制9周年記念祝賀会  
10月5日 緩和医療市民公開講座 菜の花ホール  
10月12日 鶴岡市防災訓練  
10月14日 鶴岡市人口問題講演会  
11月1日 山形病院協議会 病院長会議  
11月7日 鹿児島市鶴岡市兄弟都市45周年記念祝賀会  
11月8日 山形県防災訓練 DMAT参加  
11月9日 震災訓練  
11月12日 鶴岡准看護学院 戴帽式  
11月17日 鶴岡市人口問題講演会  
11月21日 荘内看護専門学校 繼灯式  
11月22日 ELNECJ開催  
11月26日 荘内病院中長期計画評価委員会  
11月28日 病床機能報告提出  
11月29日 荘内病院感染対策セミナー  
12月4日 山形大学ADR講演会

- 12月 7日 協立病院創立50周年祝賀会
- 12月16日 地域医療連携推進協議会 東京第一ホテル鶴岡
- 12月24日 鶴岡市総合計画審議会
- 12月27日 燐学生懇談会

## 鶴岡市立莊内病院医学雑誌について

名 称 鶴岡市立莊内病院医学雑誌  
略 名 鶴岡莊内病院医誌  
欧文名称 The Medical Journal of Tsuruoka  
Municipal Shonai Hospital  
欧文略称 Med.J.Shonai Hospital  
発 行 者 三科 武  
発 行 所 鶴岡市泉町4番20号  
鶴岡市立莊内病院

編集委員 委員長 正岡 俊明  
副委員長 二瓶 幸栄  
委員 古屋 紀彦 高柳 健史  
和泉 典子 草島 宏平  
鈴木 郁 押井あけみ  
丸山 美都 阿部 奈美  
発行部数 450部  
発行回数 毎年1回

### 鶴岡市立莊内病院医学雑誌投稿規定 (第25巻より)

#### 本誌の内容および投稿資格について

- 1 本誌に掲載する論文は、鶴岡市立莊内病院の職員及びその関係者の投稿による。  
以前当院の職員であった場合の投稿については、当院で経験された症例であり、他誌への掲載がない場合のみ投稿を許可する。
- 2 本誌は、医学に関する症例研究、学術研究、綜説、症例報告、集談会記録、この他病院活動、病院統計、病院管理運営に関する記録も収録する。
- 3 原著、綜説は未発表のものに限る。
- 4 他雑誌に全文収載された論文については、著書名、標題名、収載雑誌名、巻、号、ページ、年を記録し、抄録を載せる。
- 5 学会・集会等において、これらの記録誌に抄録のみ収載されたものについては、講演原稿あるいはこれを改稿して論文の体裁を整えたものあるいは抄録を収録して、発表した学会・集会名、発表年月日を併記する。  
なお、4、5については、各部門の業績として責任者が一括して（様式は、別に定める）図書室司書に提出する。
- 6 論文は査読を行い、採否、掲載順序は編集委員会が決定する。

#### 論文の構成と書き方

- 7 原稿の形式は、標題、氏名（所属）、400字程度の要約、Key words（5個以内）、本文、文

献、写真、図表とする。

- 8 原稿は、原則として20字×20行とし、邦文、横書き、平がな、当用漢字（専門用語は使用してよい）、現代かなづかいを用いる。  
原稿用紙は、20字×20行であれば、市販の用紙でもかまわない。
- 9 ワープロを使用する場合は、20字×20行詰原稿とする。
- 10 本文の長さは、原著24枚、症例20枚程度を標準とする。（図表を除く）
- 11 外国語の固有名詞は、原語のまま用いる。ただし、日本語化しているものは片かなとする。  
薬品名は、商品名を用いず、正式名を用いる。
- 12 度量衡は、C.G.S.単位とし、算用数字を用いる。ただし、専門的な分野については考慮する。

#### 図・表・写真について

- 13 図表は、原稿本文とは別の用紙に黒インクで書き、表題や説明をつける。
- 14 写真等は、原則として白黒とし、挿入個所は原稿用紙の欄外に朱書きする。
- 15 カラー写真は、原則として認めないが、編集委員会で認めたものについては、カラー印刷とする。

## 文献について

- 16 文献は、出現順に番号を文章の右肩に附し、本文の終わりにまとめて記載する。  
外国雑誌は Index Medicus、邦文雑誌は医学中央雑誌収載誌目録による略語を使用する。著者は、初出の 2 名までとし、以下は邦文では他、欧文では et al と記載する。標題名は完全に記載する。

〔原著の場合〕

著者名：論文題名、雑誌名 卷(号)：頁～頁、西暦年号

例：

1) 邦文誌

宮田清典、高田 治、他：グルカゴン－インスリン療法にて減黄効果を得た胆汁うっ滞性黄疸の 1 例. 最新医学 44(3):632-638,1989

2) 欧文誌

McMahon BJ, Helminiak C, et al:Frequency of adverse reactions to hepatitis B vaccine in 43,618 persons. Am J Med 92:254-256,1992

〔著書（単行本）の場合〕

著者名：題名、監修者名（編者名）、書名、版、頁～頁、出版社、出版地、

西暦年号

例：

1) 和書

内野治人、他：前白血病. 中尾喜久監修、白血病のすべて、2 版, p38-45, 南江堂、東京, 1981

2) 洋書

Gardnar MB:Oncogenes and acute leukemia. Stass SA(ed), The Acute Leukemias, p327-359, Marcel Dekker, New York, 1987

## そ の 他

- 17 原稿申込は年中受け付けるものとするが、2月末日までに提出されたものは、最新号への掲載とする。原稿受付は編集委員会が行い、その受付代表を図書室司書とする。
- 18 校正は、原則として著者が行う。
- 19 別刷は、20部まで病院の負担で行う。それ以

上は、実費を著者の負担とする。(校正時に別刷の部数を指定すること)

- 20 本誌に掲載された論文の著作権は、荘内病院に帰属するものとし、出版権・複製権・公衆送信権の利用について許諾するものとする。

(平成11年4月1日 改正)

(平成20年4月1日 改正)

(平成25年12月1日 改正)

(平成26年12月1日 改正)

## 【学術活動業績の書き方】

### －他誌に論文を掲載した場合－

論文タイトル

鶴岡市立荘内病院所属科

著者名

掲載した雑誌名 卷(号)：頁～頁、西暦要 約（必要な場合）

### －学会に発表した場合－

論文タイトル

鶴岡市立荘内病院所属科

発表者

第〇回

学会名 (発表した日付 西暦年 月 日)  
抄 錄（必要な場合）

### －院外で講演を行なった場合－

講演タイトル

鶴岡市立荘内病院所属科 講演者

講演会名 (講演会日 西暦年 月 日)

### －院内での各種研修会を行なった場合－

各部署ごとにまとめて、前巻にならって提出して下さい。

上記の様式で書き、各部門の責任者がまとめてから提出してください。

## 莊内病院医学雑誌編集委員会要綱

### (目 的)

第1条 この要綱は莊内病院医学雑誌を編集するため設置する編集委員会（以下「委員会」という）について必要な事項を定めることを目的とする。

### (所 轄 事 項)

第2条 委員会は、病院が発行する医学雑誌の編集および関係機関への配布を所轄する。この医学雑誌はとりあえず年1回発行し、将来は複数回発行を目指すものとする。

### (組 織)

第3条 委員会は委員長1名、副委員長1名および若干名の委員より構成される。  
2 委員は病院職員のなかから院長が委嘱する。  
3 委員長および副委員長は委員の互選により決定する。  
4 委員の任期は2年とし、欠員が生じた場合の任期は、前任者の残任期間とする。任期終了後、再度委嘱されることを妨げない。  
5 次期委員の推薦は、編集委員の任期終了前に、病院管理者と委員との合同会議で行なうものとし、被推薦者の同意を得るものとする。

### (顧 問)

第4条 委員会の円滑な運営を図るため、次の顧問を置く。

- (1) 副院長
- (2) 診療部長
- (3) 事務部長
- (4) 看護部長
- (5) 教育研究研修委員長及び副委員長

### (支 援 組 織)

第5条 委員会において困難な問題が生じ、他の

病院職員の支援を必要とするような場合は、院長会議および科長会議に諮るものとする。これらの機関はしかるべき援助をしなければならない。

### (会 議)

第6条 委員長は必要に応じて委員会を召集し会議を主催する。  
2 副委員長は委員長を補佐し、委員長が不在のときはその職務を代行する。  
3 委員会は必要に応じ、上記以外の職員または知識経験者の出席を求めて意見を聞くことができる。

### (投 稿 等)

第7条 職員は病院の使命を果たすために必要な研鑽に努めるとともに、委員会の業務に協力するものとする。  
2 投稿規定は別に定める。

### (庶 務)

第8条 委員会の庶務は事務部において処理する。

### 付 則

この要綱は、1989年6月より適用する。

この要綱は、2001年10月1日に改定、施行する。

この要綱は、2003年7月1日に改定、施行する。

## 編 集 後 記

2014年度号（第26巻）も発刊まであとわずかまで漕ぎ着けました。学術論文は前年より1編多く計8編の投稿をいただきました。皆様、診療のお忙しい合間に執筆いただきありがとうございました。専門医制度の普及により、学会発表・論文投稿などの重要性が増す中、主要学会誌への投稿が優先され、類似内容の病院誌への投稿は二重投稿と見なされることなどから当院医学雑誌への学術論文投稿数は一昔前に比べて激減しました。しかし、近年では小児科・産婦人科など一部の学会では「病院誌への投稿でも専門医点数として認める」という解釈がなされております。皆様、いま一度学会規約をご確認の上、病院誌への投稿をご検討お願いします。

今年度の特集は認定看護師の皆様にお願いしました。投稿に目を通し、資格取得後の皆さんのが部署の中心で周囲を牽引し生き生き働いている様を思い返すにつけ、どの分野でも資格取得は個人にとっても周囲にとっても大きな財産であると再確認しました。同時に、“元気がないのでは？”とささやかれている当院でも意欲を持って誇りを持って生き、ハードワークを厭わないメンバーは少なからずいることも実感し、その意欲に応えられる病院でなければならないし、そのため自分も努力せねばならないとの思いを新たにしました。

最後に、いつもギリギリになって集まった原稿の校正など煩雑な出版業務を引き受けて下さる阿部奈美委員と丸山美都委員に厚く御礼を申し上げます。

2016/1/29 正 岡 俊 明

鶴岡市立荘内病院医学雑誌

第 26 卷

2016年 3月1日印刷  
2016年 3月10日発行  
発行者 三科 武  
編集者 鶴岡市立荘内病院医学雑誌編集委員会  
発行所 鶴岡市立病院内  
鶴岡市立荘内病院医学雑誌編集委員会  
〒997-8515 鶴岡市泉町4番20号  
電話 0235(26)5111  
FAX 0235(26)5110  
URL = <http://www.shonai-hos.jp>  
e-mail : [tosyo@shonai-hos.jp](mailto:tosyo@shonai-hos.jp)  
印刷人 黒井 徳夫  
印刷所 J A 印刷 山形  
〒997-0004  
鶴岡市本田字八百地275番地  
電話 0235(24)0690  
FAX 0235(24)0637